

2025（令和7）年度

事業報告書

学校法人 大阪歯科大学

目 次

はじめに	1
第1部 法人の概要	2
(1) 基本情報	2
①法人の名称	
②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス	
(2) 建学の精神	2
(3) 学校法人大阪歯科大学・大阪歯科大学の沿革	2
(4) 学校法人大阪歯科大学組織図	3
(5) 設置する学部・学科・研究科等	3
(6) 学部・学科・研究科の学生数の状況	4
(7) 理事・監事・評議員・会計監査人の概要	4
(8) 理事選任機関の概要	6
(9) 教職員の概要	6
第2部 事業の概要	7
(1) 大学全体	7
(2) 歯学部歯学科・大学院歯学研究科	8
(3) 医療保健学部(口腔保健学科・口腔工学科)・大学院医療保健学研究科	17
(4) 看護学部看護学科	29
(5) 研究に関すること	38
(6) 国際交流	42
(7) 社会連携・社会貢献	42
(8) 附置施設の活動	43
(9) 教員力の向上	46
(10) 附属病院の取り組み	48
(11) 施設・設備(教育研究等環境)の整備	52
(12) 法人・大学の管理運営	52
(13) 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要	53
(14) 第1期中期計画(2020年度～2024年度)及び各年度事業計画(2020年度～2025年度)の進捗・達成状況	54
(15) 附属資料	59
第3部 財務の概要	73
第4部 令和7年度事業報告書附属明細書	77

はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛公益」を基調とした100年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2025（令和7）年度は、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指すとともに、「第2期中期計画」「第2期中期財政アクションプラン」（2025年度～2029年度）のスタート年度でもあり、建学の精神のこれまで以上の具現化を目標とし、多くの成果を上げることができた。

本学は、「学修者本位の教育への転換」のための取り組みを継続し、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にあるSDGs、Society5.0、地方創生及び地域連携を盛り込み、持続的な教員力の向上を図った。

歯学部歯学科では、教育活動の一層の向上に取り組み充実を図った。初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、共用試験、臨床実習、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CCPX）、歯科医師国家試験の成績向上に取り組み、第119回歯科医師国家試験では、前回に引き続き新卒者の合格率は100%であった。学生の受け入れについては、入学志願者数が増加し順調に定員を充足した。

大学院歯学研究科では、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部では、歯科衛生士国家試験が、第1期生以来連続で合格率100%を達成した。歯科技工士国家試験は88.9%、社会福祉士国家試験は3年連続で新卒者は全員合格した。歯科衛生士研修センターでは、歯科衛生士のリカレント教育の拠点として開設8年目の研修が無事終了した。また、厚生労働省から「令和7年度歯科衛生士技術修練部門運営事業」実施団体の選定を受けて、同センターの機能の充実を図った。

大学院医療保健学研究科では、2026年3月の修士（口腔科学）の学位取得者は9名、博士（口腔科学）の学位取得者は7名であった。

看護学部看護学科では、安定した入学志願者数を示し定員を充足、第1、2学年次のカリキュラムは、履修計画のとおり順調に進行した。そのような中で、大学院看護学研究科看護学専攻（仮称）の2027年4月開設に向けた準備を加速し、設置認可申請を行った。

附属病院では、附属病院組織改革委員会の検討を踏まえ、医療の質向上と経営効率化を図り、収支が好転した。2025年4月より頭頸部腫瘍や口腔腫瘍などの術後に顎の形態が変形した患者さんに対して特殊な義歯を作製する顎補綴外来を設け、多様なニーズに対応している。

医療イノベーション研究推進機構では、学内外の研究者、行政及び企業との連携を通じ、特色ある学術研究の推進に取り組んでいる。

以上、今後とも教育・研究・臨床等の各活動の一層の充実発展を目指していくものである。

第1部 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称 学校法人大阪歯科大学

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

(住所) 大阪府中央区大手前1丁目5番17号 (電話番号) 06-6910-1111

(FAX番号) 06-6943-8051 (ホームページアドレス) <https://www.osaka-dent.ac.jp>

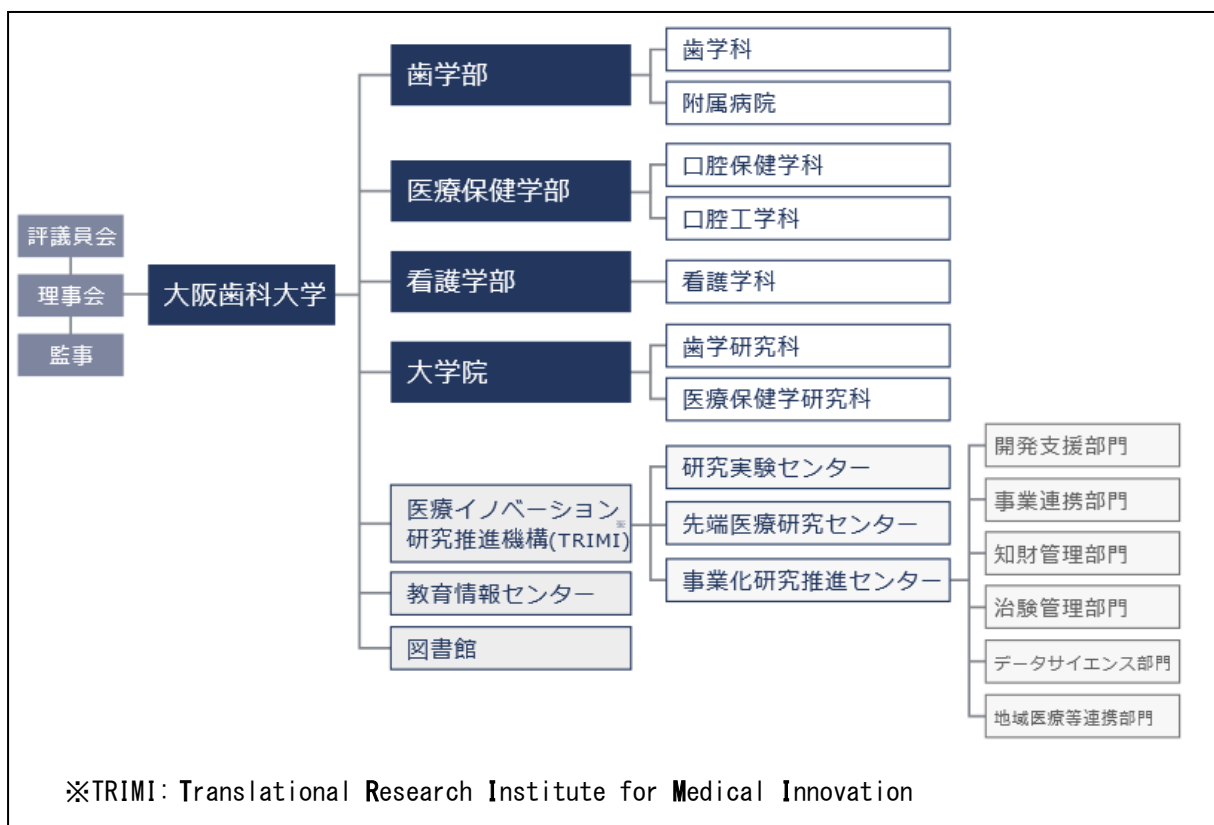
(2) 建学の精神

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

(3) 学校法人大阪歯科大学・大阪歯科大学の沿革

1911 (明治44) 年12月12日	大阪歯科医学校設立
1912 (明治45) 年1月14日	大阪歯科医学校開校式 (創立記念日)
1917 (大正6) 年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
1917 (大正6) 年9月25日	専門学校令による大阪歯科医学専門学校開校
1920 (大正9) 年3月12日	公立私立歯科医学校指定規則による大阪歯科医学専門学校指定
1947 (昭和22) 年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立 (大学昇格記念日)
1951 (昭和26) 年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可
1952 (昭和27) 年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可
1961 (昭和36) 年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科 (博士課程) 設置認可
1964 (昭和39) 年4月17日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所 (大阪歯科大学歯科技工士専門学校) 開設
1968 (昭和43) 年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校 (大阪歯科大学歯科衛生士専門学校) 開設
1997 (平成9) 年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎 (体育・課外活動施設) と合わせて3学舎体制となる。
2011 (平成23) 年11月11日	創立100周年記念式典挙行
2016 (平成28) 年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部 (口腔保健学科、口腔工学科) 設置認可
2017 (平成29) 年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻 (修士課程) 設置認可
2018 (平成30) 年3月31日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
2019 (平成31) 年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
2019 (令和元) 年11月19日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程 (後期) 設置認可
2023 (令和5) 年9月4日	大阪歯科大学看護学部看護学科設置認可

(4) 学校法人大阪歯科大学組織図



(5) 設置する学部・学科・研究科等

○大阪歯科大学歯学部歯学科、大阪歯科大学大学院歯学研究科

(楠葉学舎) 大阪府枚方市楠葉花園町 8 番 1 号

○大阪歯科大学看護学部看護学科

(楠葉西学舎) 大阪府枚方市楠葉花園町 1 1 番 8 号

○大阪歯科大学医療保健学部、大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

(牧野学舎) 大阪府枚方市牧野本町 1 丁目 4 番 4 号

○大阪歯科大学附属病院

(天満橋学舎) 大阪市中央区大手前 1 丁目 5 番 1 7 号

(6) 学部・学科・研究科の学生数の状況 (2025年5月1日現在)

学部・学科・課程名	修業年限	入学定員	入学者数			収容定員	現員
			男	女	合計		
歯学部歯学科	6年	160名	68名	60名	128名	960名	770名
医療保健学部	4年	100名	20名	80名	100名	400名	377名
口腔保健学科		70名	1名	70名	71名	280名	280名
口腔工学科		30名	19名	10名	29名	120名	97名
看護学部看護学科	4年	80名	7名	73名	80名	160名	177名
大学院歯学研究科博士課程	4年	30名	18名	16名	34名	120名	151名
大学院医療保健学研究科修士課程	2年	10名	1名	3名	4名	20名	14名
大学院医療保健学研究科博士課程(後期)	3年	3名	1名	3名	4名	9名	22名
合計		383名	115名	235名	350名	1,669名	1,511名

* 歯学部歯学科については、学則上の入学定員、収容定員

(7) 理事・監事・評議員・会計監査人の概要

【理事】

・定数：7名以上11名以内 ・実数：10名 ・就任年月日：2025(令和7)年6月26日

氏名	主な現職
理事長 川添 堯彬	大阪歯科大学学長
常務理事(業務執行理事) 田中 昭男	大阪歯科大学特任教授
理事 <外部理事> 盛山 正仁	衆議院議員
理事(業務執行理事) <外部理事> 生駒 等	歯科医師
理事 今井 弘一	大阪歯科大学特任教授
理事(業務執行理事) 中嶋 正博	大阪歯科大学特任教授
理事 三宅 達郎	大阪歯科大学特任教授
理事(業務執行理事) 山本 一世	大阪歯科大学教授
理事 藤原 眞一	大阪歯科大学教授
理事(業務執行理事) 中尾 昌彦	大阪歯科大学経理部長

[順不同、敬称略]

【監事】

・定数：2名 ・実数：2名 ・就任年月日：2025（令和7）年6月26日

氏名		主な現職
監事	古川 壽男	歯科医師
監事	平田 正憲	弁護士

[順不同、敬称略]

・役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法の規定により、東京海上日動火災保険株式会社の私大協役員賠償責任保険に加入している。

○契約者：日本私立大学協会

○被保険者：記名法人（学校法人大阪歯科大学）

○個人被保険者：理事・監事、評議員

○補償内容

（1）役員（個人被保険者）に関する補償：法律上の損害賠償金、争訟費用等

（2）記名法人に関する補償：法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

○保険期間中総支払限度額：10億円

【評議員】

・定数：30名以上40名以内 ・実数：36名 ・就任年月日：2025年6月26日

氏名	主な現職	氏名	主な現職
飯利 邦洋	歯科医師	辻林 徹	大阪歯科大学教授
池尾 隆	大阪歯科大学教授	土居 正英	歯科医師
上田 雅俊	大阪歯科大学名誉教授	徳富 敏信	歯科医師
大塚 俊裕	歯科医師	富永 和也	大阪歯科大学教授
大松 高	歯科医師	中村 彰彦	歯科医師
岡本 学	歯科医師	野崎 中成	大阪歯科大学教授
小川 哲治	歯科医師	橋本 成人	歯科医師
沖永 敏則	大阪歯科大学教授	馬場 俊輔	大阪歯科大学教授
奥田 純一	歯科技工士	平塚 靖規	歯科医師
雄西智恵美	大阪歯科大学特任教授	深田 拓司	歯科医師
恩田 信雄	歯科医師	北條 博一	歯科医師
柿本 和俊	大阪歯科大学客員教授	前田 博史	大阪歯科大学教授
加藤 信次	歯科医師	松本 圭右	歯科医師
酒井 昭則	歯科医師	百田 義弘	大阪歯科大学教授
志水 志郎	大阪歯科大学教授	安岡 良介	歯科医師
末瀬 一彦	歯科医師	吉本 一馬	歯科医師
杉立 智子	歯科衛生士	和手 甚京	歯科医師
高橋 一也	大阪歯科大学教授	和唐 雅博	大阪歯科大学医員

[順不同、敬称略]

【会計監査人】

・定数：1

名 称	就任年月日
仰星監査法人	2025（令和7）年6月26日

（8）理事選任機関の概要

理事選任機関の構成員は、理事2名、評議員2名、学外有識者2名となっており、学校法人大阪歯科大学寄附行為第6条及び理事選任機関運営規程第2条により、理事会の決議により選任される（就任年月日：2025年4月1日）。

理事	2名	○田中 昭男、 川添 堯彬
評議員	2名	松本 圭右、 辻林 徹
学外有識者	2名	川本 達雄、 豊田 紘一

[○は、議長を示す。順不同、敬称略]

（9）教職員の概要（2025年5月1日現在）

専任教員数	220名
専任職員数	187名
専任教職員数 合計	407名

第2部 事業の概要

(1) 大学全体

大学全体での取り組み

- ・ 大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。
- ・ 歯学部（第1学年から第4学年まで）と大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎、看護学部は楠葉西学舎で、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動を行っている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪府中央区の天満橋学舎にて行っている。
- ・ 大学・大学院全体の教学マネジメント（内部質保証推進）組織としての「大学協議会」「自己点検・評価委員会」合同会議が、自己点検・評価活動を行い改善課題の解決に取り組んでいる。
- ・ 本学全体の「3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」と、文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」を基に、大学全体のアセスメント・プランと各学部のアセスメント・プランを定め、人材の育成に取り組んだ。
- ・ 5つの方針（「教育研究組織の設置方針」「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会連携・社会貢献の方針」「管理運営の方針」）を基に大学の質の向上を図った。
- ・ 2021年3月に開設した「ODU歯科医療連携プログラム」は、3学部の教育目的に関連する様々な分野を横断的、かつ総合的に学ぶことにより、修得した知識・技能・態度を組み合わせる力を養い、歯科医療の専門職に求められる多様なニーズに対応する実践力を身に付け、学士力の向上に資することを目的としている。2021年4月に文部科学省に認定された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）MDASH」をこのプログラムの履修領域の第1弾とした。また、第2弾として2024年4月の看護学部設置に伴い、「キャリアプランニング領域」を設けた。
2025年度は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）MDASH」は認定後5年目を迎え、これまで以上に本学の学生がデジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」への関心を高め、適切に理解し、これを活用できる医療人に育成することを目的とし、各学年においてHR等で説明を行った。
- ・ 「ODUソーシャルコミュニティ」は、各学舎周辺の清掃美化活動を通して、学生の

奉仕精神と社会人基礎力の育成を目的としており、全学部が積極的に取り組んでいる。また、SDGs、Society5.0、地域連携を大学全体の共通の課題として掲げ、ESD（持続可能な開発のための教育）を進めている。

- ・ IR情報については、2025年度は、下記の各種調査を実施し、教育活動の見直しに活用した。

1 歯学部

- (1) 2025年度新入生アンケート調査の実施
- (2) 2025年度学習実態調査の実施
- (3) 2025年度授業評価アンケート調査（前期・後期）の実施
- (4) 2025年度卒業時アンケートの実施

2 医療保健学部

- (1) 2025年度新入生アンケート調査の実施
- (2) 2025年度学習実態調査の実施
- (3) 2025年度授業評価アンケート調査（前期・後期）の実施
- (4) 2025年度卒業時アンケートの実施

3 看護学部

- (1) 2025年度新入生アンケート調査の実施
- (2) 2025年度学習実態調査の実施
- (3) 2025年度授業評価アンケート調査（前期・後期）の実施

- ・ 「第2期中期計画（2025年度～2029年度）」に、その全学的な行動目標を定め、建学の精神を基調とする使命感を持った人材育成に努めた。さらに、「第2期中期財政アクションプラン（2025年度～2029年度）」の進捗状況を注視し、財政の強靭化を図った。

- ・ 看護学部看護学科については、開学3期目となる入学者の確保、教育の質の向上に取り組むとともに、大学院看護学研究科開設に向けて準備を進めた（39ページ参照）。

（2）歯学部歯学科・大学院歯学研究科

歯学部歯学科の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など

幅広い人間性

一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら、以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

○ディプロマ・ポリシー

豊かな人間性を支える基盤的能力及び歯科医師としての専門的能力を有機的に備え、新時代の歯科医療に積極的に対応できる人材を輩出する。

- ・基礎医学及び歯科医学の体系的な知識を有し、これを礎として実社会に還元できる能力を身に付けている。
- ・種々の情報を自ら収集・分析する科学的探究心を涵養し、自ら問題を発見し、解決できる能力を有している。
- ・汎用能力及び危機管理能力を持ち、絶えず研鑽を積む習慣を持っている。
- ・海外研修などを通じて、国際人としての素養を磨きグローバルに活躍できる実力を身に付けている。
- ・歯科医療を適切かつ確実に行う技能を身に付けている。
- ・新時代の歯科医療に積極的に取り組み、患者中心の医療並びに人々の求める歯科医療を理解し、チーム医療を主体的に実践できる能力を身に付けている。
- ・価値観の多様性に対応できる幅広い視野と判断力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー

「博愛と公益」の精神のもと、「歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献する」という教育方針に基づき、専門的な「知識・技能」、総合的な「人間力・チームワーク」を備えた歯科医学・歯科医療を担う人材を養成する。

修得概要

- ・6年間一貫教育の中で歯科医師として必要な知識、技能及び態度を修得する。
- ・入学時の初年次教育及び早期臨床体験学習から、臨床実習に至る一貫した履修の中で歯科医療人として必要な態度を修得する。
- ・歯科英語の修得及び海外研修活動を通して、国際医療人としての素養を身につける。
- ・研究マインドの養成のために研究チャレンジに取り組む。
- ・学生が意欲を持って学習でき、4年次のコアカリ講義・実習、臨床実習による歯科専門教育を通して、歯科医師として自ら考え、実践する能力及び6年次の統括教育を通じて、歯科医学教育における総合的な知識を修得し、国家

試験に合格する能力を身に付ける。

- ・診療参加型臨床実習を通じて歯科医師として必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・患者さんへの思いやり及び社会的責任を果たすことができる倫理観を修得する。

教育方法

- ・シラバスに沿った講義と実習。
- ・知識及び技能の獲得のために開発した教材の利用。
- ・アクティブ・ラーニングのためのグループ学習。
- ・学習支援のための小グループ講義。
- ・社会と患者との関わりを認識するための体験学習及び臨床実習。

学習成果の評価

- ・シラバスに示す各科目試験及び総括試験。
 - ・臨床実習前に行う歯学系共用試験。
 - ・臨床実習時の臨床知識試験・歯学系臨床能力試験。
 - ・臨床実習終了後の学士試験。
- 以上の各試験によって評価し、進級及び卒業の判定を行う。

歯学部歯学科の教育改革

1. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及び建学の精神の「博愛」と「公益」の具現化に努めるべく、学生支援に関する方針（HPに掲載）に則り、教学支援体制の充実を図り、医療人として使命感をもった人材を育成するために教学支援を行った。

特に成績不振の学生対応については、授業の出席状況や各試験の結果によって対象者を洗い出し、学年指導教授、助言教員及び特別アドバイザーによる個別面談を行い、留年、休学、退学の可能性がある学生にはさらに父母等とも面談を行い生活習慣や学習方法を指導した。また学習支援部門の役割を担う歯科医学教育開発センターで学習に不安を抱える学生や低学力の学生を、個別指導に近い形でフォローし、育み教育を実践した。

学年の学修支援は以下のとおりである。

第1学年では、まず入学直後の試験を通して低学力層の学生を抽出し、歯学教育に必要なとなる物理、化学、生物の補充教育「基礎学力充実講義」を開講した。「コミュニケーションⅠ（1. 態度教育）」（カッコ内は歯学部カリキュラム11コースの数字を示す。以下同じ）ではホームルームを通じて自学自習や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指した。また「早期臨床体験学習（1. 態度教育）」では本学附属病院で医療現場を体験し、歯科医師になることへのモチベーションを高めた。「現代教養（1. 態度教育）」では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力の習得などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的とし、PROGテストを通じて問題解決力、言語処理能力などについて、

学生自身が自己分析を行った。情報リテラシー教育は、「情報科学（2. 教養教育）」を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性とその対処法を学んだ。

新カリキュラム2022からは、「解剖学Ⅰ」「組織学」「口腔解剖学」（いずれも5. 基礎系歯科医学教育）を1年次科目として早期に専門科目を学んだ。

第2学年では「コミュニケーションⅡ（1. 態度教育）」において、ホームルーム、解剖体慰霊祭を通じ、医療従事者としてふさわしい態度、意識を身に付けさせた。また、「問題解決基盤（1. 態度教育）」は、アクティブ・ラーニング科目の1つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行った。

第3学年の「ゼミナール」「研究チャレンジ」（いずれも1. 態度教育）は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、SCRIP（スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）もしくは学生が参加している専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。なお、2025年度は、第3学年1名がSCRIP日本大会に出場し第3位に入賞した。

第4学年では、公的化となった歯学生共用試験CBT・OSCEに全員が合格できるよう指導体制の強化を行い成績の向上を図った。「コアカリに沿った講義Ⅰ～Ⅲ（9. 歯科医学統合教育）」では、CBTで狙われる分野を重点的に補い、また業者によるCBT模擬試験を年間3回オンラインで解答させ、不正解の問題を学生間で共有しグループワークを通じて理解を深めた。さらに、担当教員が解説授業を学内で実施した。OSCEについては「コアカリに沿った実習（9. 歯科医学統合教育）」を開講し対策を行った。2025年度のCBT及びOSCEの結果は下表のとおりである。

	受験者	到達者（再試験到達含む）	到達率
CBT	131名	129名	98.5%
OSCE	131名	131名	100%

歯学生共用試験の合格者（CBT・OSCEの両方を到達した者）

	受験者	合格者	合格率
歯学生共用試験	131名	129名	98.5%

第5学年では、毎日8時45分から臨床講義（30分間）を、また夕刻16時から総合講義（1時間）を開講している。臨床実習は天満橋学舎附属病院でこの2つの講義の間に行い、臨床実習必携を毎年修正を加えた上で学生に配付している。学生専用診療室である8階総合診療室（チェア33台）においては、保存系3科・補綴系3科の担当患者の一口腔一単位診療を行うとともに、それ以外は「特科実習」として各専門診療科をローテーションするハイブリッド形式で行い、附属病院だけでなく学外の急性期及び回復期病院も利用し、多くの症例を経験できるようにした。

臨床実習の成績評価は、歯学生共用試験診療参加型臨床実習後 P X の評価及び臨床実習完了者審議会での判定をもとに決定する。なお、歯学生共用試験診療参加型臨床実習後 P X は臨床実地試験（C P X）と一斉技能試験（C S X）の 2 つの試験で構成されている。

また、国家試験の早期対策として、年間 5 回臨床知識試験を実施し、そのうち第 4 回は第 6 学年の学士試験と同日、同問題で行った。臨床知識試験の結果も進級の基準としている。

第 6 学年においては、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努め、きめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック及びティーチング・アシスタント（T A）による学修補助等）を行った結果、第 1 1 9 回歯科医師国家試験の合格率は、前回第 1 1 8 回に続き新卒者が 1 0 0 % となった。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

■歯科医師国家試験 合格率【新卒】（過去 5 年間）

回数	実施年月	受験者数	合格者数	本学合格率	全国平均
第 119 回	2026 年 2 月	57 名	57 名	100%	80.2%
第 118 回	2025 年 2 月	60 名	60 名	100%	84.0%
第 117 回	2024 年 1 月	71 名	68 名	95.8%	81.5%
第 116 回	2023 年 1 月	81 名	64 名	79.0%	77.3%
第 115 回	2022 年 1 月	70 名	58 名	82.9%	77.1%

2. 教育環境の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「学生の学びについて、多様な授業形態に対応できる環境を整備する。」としている。2025 年度は楠葉学舎 2 号館 1 階第 5 大講義室、3 号館 1 階大学院講義室に Wi-Fi 環境を構築した。また、天満橋学舎西館 5 階の臨床講義室にカメラを数台設置し、防犯対策を強化した。

3. 入学志願者増加への取り組み（学生の受け入れ）

○アドミッション・ポリシー

歯学部歯学科では、先輩たちが弛まぬ努力で築いた礎を守りながら、「博愛」と「公益」の建学の精神に基づき、新時代の人々の口腔の健康を守る歯科医療を担うことのできる人材を養成する。そのため、次のような能力や態度・資質を備えた人を求める。

【求める人物像】

- ・ 歯科医学を学ぶために十分な基礎学力を有する人
- ・ 医療人として社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・ 科学的な探究心を持って考え、自ら努力する人
- ・ 十分なコミュニケーション能力を有し、協調性のある人
- ・ 専門的知識、技能、態度を修得して、国家資格の取得に向けて着実に努力する人

- ・グローバルな視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人
- ・歯科医師としての倫理観、世界観などを備える幅広い豊かな人間力と行動力を持っている人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

歯学部歯学科で学ぶ歯科医学は実学である。これまでに学んだことを、患者をはじめ多くの人々と関わりながら医療の現場で実際に使うことができる能力が求められる。そのため、高校教育で培われた「学力の3要素」（1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力、3.主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識や技能・思考力・判断力・表現力・多様な人々と協働する精神・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことが望まれる。

□知識・技能

- ・歯科医学の基礎となる生命科学に関連する数学、理科（物理・化学・生物）の学力
- ・高等学校の教育課程における、英語の一般的な読解力、及び基本的な文章力とコミュニケーション能力
- ・高等学校の教育課程における、幅広い教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのでき、又、発表することのできる基礎学力

□思考力・判断力・表現力

- ・様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる
- ・他者の意見に耳を傾け、自分の考えを適切に相手に伝えることができる

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にできる態度
- ・主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、学校推薦型選抜、一般選抜、特別選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、歯学部は、アドミッション・ポリシーの

もと、優秀な学生の確保に取り組んだ。アドミッションセンターは、センター長1名と事務職員5名で構成されている。

オープンキャンパスについて、コロナ禍前の従来の形式で開催した。来場型オープンキャンパスは、6月15日に楠葉学舎、8月3日に天満橋学舎にて開催し、合計316人（楠葉134人+天満橋182人）が参加した。さらに、オンライン型のオープンキャンパスプログラムとして、有名予備校講師による入学者選抜対策講座を2025年8月12日から11月10日までの間に配信し、総視聴回数は、432回（英語146回、数学130回、物理31回、化学64回、生物61回）であった。

入学者選抜については、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜では、面接に代え志望理由書・調査書による書類審査を課すなどの変更を行った。また、大学入学共通テスト利用選抜において5科目型を新設し、新たな志願者層の開拓に努めた。それに加え、「インターネット出願」、及び取得時期不問の「英語民間試験利用制度」を継続することで、引き続き出願促進を実施した。「英語民間試験利用制度」とは、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、平均点+10点を保証する制度である。

（注）英語の各種民間資格・検定試験について

試験名	CEFR B2 平均点+10点
英検®（CBT/ S-CBT 含む）	2300以上
Cambridge English	160以上
GTEC（2023.3.31までに受験した場合）	1190以上
GTEC（2023.4.1以降に受験した場合）	1180以上
TOEIC®（L & Rのみ）	785以上
TOEIC®（L & R / S & Wの合計）	1560以上
TOEFL iBT®	72以上
TEAP（4技能）	309以上
TEAP CBT（4技能）	600以上

- ・いずれも取得時期は問わない。・GTECはオフィシャルスコア（検定受験の成績）のみを認める。・TOEFL ITPテスト、TOEIC L&R IPテスト・TOEIC S&W IPテストは対象とはならない。
- ・TOEIC（L&R/S&W）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアを利用する。
- ・TOEFL iBT®はMyBest™スコアも認める。・換算得点は100点を上限とする。

試験場は、大阪会場のほか、一般選抜（前期）においては東京会場・名古屋会場・広島会場・福岡会場を、一般選抜（全学部日程）は東京会場を、一般選抜（後期）は東京会場・福岡会場を設置し受験生の受験機会の拡大に努めた。

また、6年間の学納金が国立大学と同額となるようにその差額分を減免する「入学者選抜成績優秀者特待生制度」については、対象人数を3名から15名に増枠することにより、優秀な受験生の確保に努めた。その結果、特待生に認定された者のうち1名が入学した。「入学者選抜成績優秀者特待生制度」の概要は以下のとおりである。

免除額内訳	6年間免除総額	対象人数	
4,614,200円×6年間	27,685,200円	一般選抜（前期） 一般選抜（全学部日程）	10名
		大学入学共通テスト利用選抜（前期）〔5科目型〕	5名

※国立大学の授業料の年額は、平成十六年文部科学省令第十六号 国立大学等の授業料その他の費用に関する省令による。

2024年度入学者選抜時に比べ18歳人口が微増した年度ではあったが、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜の面接の休止や「入学者選抜成績優秀者特待生制度」の採用枠の拡大、一般選抜（前期）の日程について他大学との重複を回避するなどの策が功を奏し、志願者は、2024年度の1,265名から2,422名に増加し、募集人員である128名を充足することができた。これまでの本学の地道な入試広報活動に加え、上記のような入学者選抜制度の改革や「入学者選抜成績優秀者特待生制度」の拡充などの活動が実を結んだ結果であると考えられる。

なお、転入学・編入学試験については、5名の受験生がおり3名が合格し入学した。

4. 学生支援体制

歯学部では、学年指導教授・助言教員のほかに特別アドバイザー、及び歯科医学教育開発センター所属の教員を教育アドバイザーとして配置し、特に助言教員・特別アドバイザーは、専任教員のうち、学生教育に熱意のある者から選任しており、カリキュラムに定める講義・実習とは別に、自己の担当する学生に対して、個別に学習支援及び生活指導を行った。各支援の記録は教務システム・学生カルテに蓄積し、歯学部教務部委員会で報告し必要に応じて歯学部主任教授会においても報告した。

学生の研究マインドの涵養としてオナーズ教育を展開している。その一環として、英会話の能力向上を目的とした「グローバル活躍プログラム」を実施した。このプログラムは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIPへのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッスンの全額又は半額を負担するもので、2025年度は28名が取り組み、そのうち全額補助者が7名、半額補助者が3名であった。（2024年度は28名）。

奨学金その他の経済的支援の整備として、入学試験成績優秀者に対して授業料の全額又は一部を免除する制度や、前年度の学業成績優秀者に授業料の一部を免除する特待生制度がある。さらに「大阪歯科大学歯学部奨学金（貸与型）」や「大阪歯科大学共済会奨学費前期・後期（前後共に貸与型）」を設けており、2025年度の実績として、歯学部奨学金は5名、共済会奨学費は延べ23名に貸与した。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」には専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。

定期的に学生部長、学年指導教授、助言教員又は特別アドバイザー、教務学生課職員、

臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

大学院歯学研究科の取り組み

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

○ディプロマ・ポリシー

歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士（歯学）の学位を授与する。

- ・口腔科学研究を担う高度の専門知識と技術を修得して発展できる。
- ・口腔科学に根ざした高度の医療技術を修得して応用できる。
- ・研究者あるいは医療人として高い教養を身に付けて展開できる。
- ・国際社会で医療人として貢献できる。

○カリキュラム・ポリシー

歯学研究の目的である口腔科学の進歩に貢献し得る研究者を養成するために各専攻科で履修する講義、実習及び学位論文の作成に関する充実したカリキュラムを策定している。

主科目に関しては研究成果に基づき評価し、有為な人材育成を図っている。

- ・生命科学の基盤の上に歯学並びに関連諸分野に関する深い洞察力と専門的知識の修得に加えて、課題探求能力を備えた研究者並びに高度な知識と技術を有する専門職業人養成のための教育を行う。
- ・自立して研究を行うために必要な英語、研究倫理、研究手法などの実践的教育を行う。
- ・先進的な口腔科学に関する研究を遂行できる能力を確立する。
- ・全身との関わりの中で口腔科学研究を遂行できる医療人を育成する。
- ・高い教養と学際的視点を涵養し、国際社会に貢献できる研究能力を獲得する。

○アドミッション・ポリシー

建学の精神である「博愛と公益」の精神を享受し、次世代の研究者・教育者としての基礎知識を有し、歯科医学の知のフロンティアを自ら率先して開拓する強い意欲を有する人を求める。

- ・口腔科学に探究心をもつ人。
- ・高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている人。
- ・幅広い視野をもち、創造性とチャレンジ精神に富む人。
- ・自ら問題を発見し、解決する力を備えている人。
- ・グローバルな視野と語学力を身に付け、国際貢献を目指す人。

1. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成は5件であり、大学院生の研究10件に対して、学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

2. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として33名を採用し、資質向上を図るための研修を2025年5月に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、専門的研究に従事するものであり、3名（うち1名は9月末まで）を採用した。

3. 大学院生の入学者増加策等

本学附属病院の研修歯科医を対象に入試説明会を行った（2025年7月2日）。

2026年度入試（2025年度実施）は、38名（定員30名）の入学者であった。このうち、外国人留学生特別選抜での入学者は10名、社会人特別選抜入学者は4名であった。

4. 大学院FDについて

2025年7月31日に「オープンアクセス及び研究データの管理・公開について～本学の新しいポリシーに対応するために～」をテーマに、教育情報センターの山本景一所長及び南部隆之副所長を講師として実施した。

(3) 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）・大学院医療保健学研究所

1. 医療保健学部における学修への取り組み

○医療保健学部のディプロマ・ポリシー

専門技能に加えて、「博愛」の精神を以て患者が抱える問題を解決するとともに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神を以て世に提案して社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・医療に係わる専門職としての基本的な知識力、技能力、判断力、問題解決力を有している。
- ・情報システムを用いて医療保健に関する情報収集、分析、課題解決及び提示ができる。
- ・科学的探究心と向上心を有し、今後の歯科医療を担える。
- ・医療、福祉及び関連する制度に関する広い知識をもち、人々の口腔の健康に寄与できる。
- ・人と温かく接し、歯科医療を通じて社会に貢献する高い倫理観と人間性を持っている。

《口腔保健学科のディプロマ・ポリシー》

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康を守る専門職としての十分な知識と技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、ケアプランを策定・実践できる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔の健康に関する問題の抽出力と解決能力を有している。

《口腔工学科のディプロマ・ポリシー》

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康に寄与できる専門職としての十分な知識と高い技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、知識と技能の提供と適切な提案ができる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔工学の発展に寄与し、歯科医療を向上させる能力を有している。
- ・患者とのコミュニケーションを通じて、口腔内装置に関する問題の抽出と解決能力を有している。

○医療保健学部のカリキュラム・ポリシー

幅広い知識や技能を修得し、「博愛」の心を持ち、柔軟に対応できる口腔保健学士及び口腔工学士を育成するために必要な教育を施し、歯科医学・歯科医療に携わる人材を輩出する。

《口腔保健学科のカリキュラム・ポリシー》

歯科医療人として欠かせない基礎歯科医学、臨床歯科医学のほか、キャリア形成と福祉に関する幅広い教養とコミュニケーション能力を修得させ、問題解決能力と向上心を醸成するとともに、超高齢社会や情報化社会に適応する歯科医療専門職として必要な口腔保健に関する知識と技能を修得させる。

修得概要

- ・早期臨床体験学習やボランティア活動、臨地・臨床実習を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を育成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学、臨床系専門教育及び臨床教育によって歯科衛生士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔工学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・「高齢者歯科学」、「口腔保健訪問実習」など的高齢者を対象とした科目を充実させるとともに機能的ケアにも重点を置き、超高齢社会に適応する人材を養成する。

- ・ 情報科学とデジタル技術に関する科目によって今後の医療 DX（デジタル・トランスフォーメーション）に対する適応能力を獲得する。
- ・ 総括教育で自らテーマを決めて探求し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

教育方法

- ・ シラバスに沿った講義、基礎実習及び臨地・臨床実習
- ・ 主体的な学修と協調性を高めるアクティブ・ラーニングとグループ学習
- ・ 実践的な臨床の現場における臨床実習
- ・ 歯科医療の情報・デジタル化に応じた講義と実習
- ・ 複数の資格を目指せる自由科目・コース

学修成果の評価

- ・ 各科目のシラバスに示す成績評価
- ・ 知識と技能を評価する学士試験
- ・ 年度当初に行う実力試験
- ・ 学内外の模擬試験

《口腔工学科のカリキュラム・ポリシー》

歯科医療人として欠かせない基礎歯科医学、臨床歯科医学のほか、キャリア形成と福祉に関する幅広い教養とコミュニケーション能力を修得させ、問題解決能力と向上心を醸成するとともに、超高齢社会や情報化社会に適応する歯科医療専門職として必要な口腔工学に関する知識と技能を修得する。

修得概要

- ・ 「早期臨床体験学習」やボランティア活動、「多職種連携学実習」及び「口腔工学病院臨床実習」を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を養成する。
- ・ 一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・ 基礎系口腔科学、社会系口腔科学及び新しい技工技術を充実させた臨床系専門教育と臨床教育によって、歯科技工士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・ 口腔保健学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・ 情報科学とデジタル加工技術に関する科目によって、今後の口腔内装置の製作と医療 DX（デジタル・トランスフォーメーション）に対する適応能力を獲得する。
- ・ 高齢者歯科学、口腔工学訪問実習など的高齢者を対象とした科目を充実させ、超高齢社会に適応する人材を養成する。

- ・ 総括教育で自らテーマを決めて探究し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

教育方法

- ・ シラバスに沿った講義と基礎実習
- ・ 主体的な学修と協調性を高めるアクティブ・ラーニングとグループ学習
- ・ 附属病院における実践的な臨床実習
- ・ 歯科医療の情報・デジタル化に応じた講義と実習
- ・ 複数の資格を目指せる自由科目・コース

学修成果の評価

- ・ 各科目のシラバスに示す成績評価
- ・ 知識と技能を評価する学士試験
- ・ 年度当初に行う実力試験
- ・ 学内外の模擬試験

1) 教育環境の整備

医療保健学部では、学修支援ポータルサイト「A-portal」を使用し、学生への諸連絡や学生と教員間のコミュニケーションを行うとともに、学生自身が授業の出欠管理、課題提出、履修や成績管理を行うことのできる環境を整えている。

このシステムはクラウドサーバーを使用しており、インターネットに接続できる環境であればどこからでもアクセスでき、本学の教員だけでなく、学外の非常勤講師からも利便性が高く、学生と教員との円滑なコミュニケーションときめ細やかな学習サポート体制を実現している。

2) 臨床実習等

学部の特色として、口腔保健学科の口腔保健臨地実習は、2年生で保育園・幼稚園・こども園、3年生で小・中学校、支援学校、保健センター等において、歯科検診補助実習、集団歯科保健指導実習を学修し、口腔工学科は、3年生には口腔デジタル技工学実習において、CAD/CAM システムにおけるデジタル技術知識を学修する。両学科3年生対象の医科歯科連携学実習は、チーム医療の重要性を理解し、多職種医療従事者との連携を図る知識を学修し、4年生での訪問実習においては、近年ますます重要性が問われている歯科訪問診療に同行し、心得、準備等をはじめとした業務全般を学修することができる。また、3年生から始まる口腔保健学科の口腔保健臨床実習では、本学附属病院での様々な診療科において学修できる他、外部の病院にも訪問し実践能力を身に付けることができ、口腔工学科の口腔工学病院臨床実習では、本学附属病院の中央技工室において、臨床現場において、口腔内装置が利用されている状態を見学し、技能向上を目指している。

3) 国家試験対策

第6期生の国家試験合格率100%の達成に向けて、国家試験対策講座を国家試験直前まで継続して実施した。学習指導強化を図るため、各学科において対象学生を選定し、担当教員は、学生との面談を踏まえ、具体的な学習計画を立案し個別指導を行った。

その結果、「第35回歯科衛生士国家試験」は学部開設以降、6年連続で合格率100%を達成し、「第11回（令和7年度）歯科技工士国家試験」においては、18名中16名の合格となり、88.9%の合格率となった。

- ・ 第35回歯科衛生士国家試験
口腔保健学科55名が受験し、全員が合格。
- ・ 第11回（令和7年度）歯科技工士国家試験
口腔工学科18名が受験し、16名が合格。
- ・ 第38回社会福祉士国家試験
9名（新卒4名・既卒5名）が受験し、5名（新卒者4名、既卒者1名）が合格。

2. 医療保健学部の学生の受け入れについて

○医療保健学部のアドミッション・ポリシー

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」である。

《口腔保健学科》

口腔の健康に寄与するためには、自らを律し、社会及び他者のために奉仕する気概を持つことが求められる。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

【求める人物像】

- ・ 口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
- ・ 社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・ 既存の概念にとらわれず、科学的知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理に努め、自己を律することができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・ 口腔の衛生管理に強い関心がある人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

医療保健学部口腔保健学科で学ぶ口腔保健学では、歯科医療の場において多くの人々と協働しつつ、患者のみならず一人一人の口腔と全身の健康のために学習した知識と技

能を使うことができる能力が求められる。この能力を身につけるためには、「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)が重要であり、後期中等教育(高等学校)での標準的な水準の能力を持つことが望まれる。

□知識・技能

- ・特に「英語」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する。
- ・多様な文章を読解して論旨を把握する能力を有する。
- ・他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる能力を有する。

□思考力・判断力・表現力

- ・様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる。
- ・自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して活動できる。
- ・健康に興味を持ち、得た情報を適切に判断して応用する技能を有する。
- ・自身の考えを論理的な文章や言葉で表現できる能力を有する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して他者と協調して活動する姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、特別選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

《口腔工学科》

口腔の健康に寄与するためには、自らを律し、社会及び他者のために奉仕する気概を持つことが求められる。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

【求める人物像】

- ・口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
- ・社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人

- ・既存の概念にとらわれず、科学的知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・製作意欲が高く、創意工夫ができる人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

医療保健学部口腔工学科で学ぶ口腔工学では、学修した知識と技能を用いて歯科医師や患者をはじめとする多くの人々とコミュニケーションをとりながら一人一人に適した口腔関連装置を製作できる能力が求められる。この能力を身につけるためには、「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）が重要であり、後期中等教育（高等学校）での標準的な水準の能力を持つことが望まれる。

□知識・技能

- ・特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・多様な文章を読解して論旨を把握する能力を有する。
- ・他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる能力を有する。

□思考力・判断力・表現力

- ・様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる。
- ・健康に興味を持ち、得た情報を適切に判断して応用する技能を有する。
- ・自身の考えを論理的な文章や言葉で表現できる能力を有する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して他者と協調して活動する姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、特別選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2025年度は、来場型オープンキャンパスを3キャンパスにおいて全6回実施し、またスタッフが個別に牧野キャンパスを案内する個別見学型オープンキャンパスも随時実施した。

【2025年度オープンキャンパス】(人数：受験対象者の合計)

第1回	3月16日(日)	牧野学舎	45名
第2回	5月31日(土)	天満橋学舎	13名(口腔工学科限定)
第3回	6月15日(日)	楠葉学舎	57名
第4回	7月27日(日)	牧野学舎	119名
第5回	8月8日(金)	天満橋学舎	11名(口腔工学科限定)
第6回	8月16日(土)	牧野学舎	130名
【個別見学型】2025年度		牧野学舎	2名

※保護者等、同伴者を除く。

以上、6回の来場型オープンキャンパスと個別見学型オープンキャンパスの参加延べ人数(生徒のみ)は、377名であった。

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校訪問、校内での入試ガイダンスを実施、近畿・中四国を中心とした会場での進学相談会に参加し、進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載など、積極的に広報活動を展開した。

口腔保健学科の2026年度入学者選抜区分別の志願者数は、総合型選抜で45名(+4名)、学校推薦型選抜で39名(+16名)、一般選抜(前期・全学部日程・後期)で35名(+11名)、大学共通テスト利用選抜(前期・後期)で15名(+5名)、私費外国人留学生選抜で0名(-1名)となっており、合計で134名(+35名)の志願者であった(カッコ内の数字は前年度比)。そのうち133名が受験、116名が合格し、最終的に募集人員を上回る86名(男子0名、女子86名)の入学者を確保することができた。

口腔工学科の2026年度入学者選抜区分別の志願者数は、総合型選抜で7名(±0名)、学校推薦型選抜で9名(-3名)、一般選抜(前期・全学部日程・後期)で15名(+11名)、大学共通テスト利用選抜(前期・後期)で10名(+6名)、私費外国人留学生選抜で9名(+2名)となっており合計で50名(+14名)の志願者であった(カッコ内の数字は前年度比)。そのうち50名が受験、48名が合格し、最終的に募集人員を上回る31名(男子9名、女子22名)の入学者を確保することができた。

一般選抜(前期)、大学入学共通テスト利用選抜(前期・後期)の受験生を対象とした「入学者選抜成績優秀者特待生制度」を設け、優秀な学生の確保に努めた。この制度により特待生に認定された者のうち1名の学生が入学したことから、一定の効果があったのではないかと考える。

■入学者選抜成績優秀者特待生制度

内容	免除額	対象人数
授業料4年間全額免除	(前期42万円+後期42万円)×4年 合計336万円	対象者3名

以上、学生募集広報活動の結果、今期（10期目）の医療保健学部の入学者数は、口腔保健学科で86名、口腔工学科は31名となり、学部全体で募集人員を上回る117名が入学した。

3. 就職支援の取り組み

医療保健学部では、牧野学舎福利厚生棟1階にキャリアセンターを設置し、就職支援システムを活用した求人情報の提供、就職相談や面接指導など、学生の就職活動をサポートし、定期的にキャリアセミナー、就業体験事業、業界研究セミナーなども開催している。

第6期卒業生の進路について、口腔保健学科においては、歯科診療所、総合病院と附属病院に就職し、口腔工学科においては、歯科技工所、歯科系企業や総合病院など就職先は多岐にわたる結果となった。

■第6期卒業生の進路状況

○求人数は、医療機関のみの数字

	口 腔 保 健 学 科	口 腔 工 学 科
求人数	1,334人（24.2倍）	359人（18.9倍）
就職	44名	13名
その他	11名（活動中）	6名（本学大学院進学など）
就職先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院 16.4% ・ 歯科診療所 60.0% ・ 本学附属病院 1.8% ・ 歯科系企業 1.8% ・ その他 20.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科技工所 47.4% ・ 本学附属病院 5.3% ・ 総合病院 5.3% ・ 歯科系企業 5.3% ・ 他業種 5.3% ・ その他（進学を含む）31.6%

4. 学部独自の取り組み

1) 社会連携活動

2025年度は、10月26日（日）枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に、学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行った。また、7月24日（木）には、枚方市内の小学生を招いての「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催。学部学生が説明・指導し、小学生は歯とお口について楽しく学ぶ機会となり、好評のうちに終了した。

2) 2025年度生涯学習セミナー

2025年度は、7月12日（土）に、本学部卒業生3名を講師として招き、「“私らしく”のライフプランを描く～多様なライフスタイルを実践している若手に聞く～」と題したセミナーをオンラインで開催した。当日は、本学学生を含む学内外から13名が参加した。

また、2025年11月15日（土）には、天満橋学舎創立100周年記念館3階中講義室において、大阪弁護士会所属の弁護士を講師に招き、「“合理的配慮”を考える」と題した講演を実施した。本講演では、合理的配慮について法的観点から理解を深める内容が取り上げられ、本学学生を含む学内外から27名が参加した。

5. 大学院医療保健学研究科の取り組み

【口腔科学専攻（修士課程）】

○ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、修了までに所定の単位を修得し、修士論文の審査及び試験に合格した者に修士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健学を発展させて人の健康に寄与する研究・開発ができる。
2. 医療保健学に関する先進の高度な専門的知識と技能を持つ。
3. 専門的知識と技能を教育できる。
4. 医療保健学に関する広い見識を持つ。
5. 国際的視野を持つ医療人として活躍できる。

○ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、修士論文を厳正に審査します。

1. 研究に関する基礎的な学修を通じて、研究の立案、計画及び実行能力を身に付ける。
2. 統計手法の学修を中心に、研究情報の集計・分析能力を身に付ける。
3. 論文作成やプレゼンテーション法を学修し、研究結果を提示する能力を身に付ける。
4. 研究実習によって、医療保健学を発展させる能力を養う。
5. 専門性の高い科目によって高度な専門的技能と知識を涵養する。
6. 教育学に関する科目を設け、教育力を養成する。
7. 歯科衛生士と歯科技工士との合同の科目で広い視野を養う。
8. 英語科目と国際医療に関する科目によって、高い語学力と国際的視野を養う。

○ アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、人の健康を口腔を通じて維持・向上させる意欲をもって研究や教育に取り組む努力ができる者です。また、歯科衛生士と歯科技工士の両方が交流して学修するため、それぞれの専門のみならず、広く医療保健学としての学術的探究心やコミュニケーション能力を持つことを求めます。

上記の考えから、アドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 歯科衛生士又は歯科技工士の資格を持ち、本学大学院課程の履修に必要な学力を持つ者
2. 医療保健学への学術的探究心と発展に貢献する意欲を持つ者
3. 基本的な情報処理ができる者
4. 自ら問題を発見し、解決する力を備えている者

5. 高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている者
6. 学士課程修了レベルの英語を修得している者

高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2026年度は8名が入学となった。

修士課程*の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2026年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は9名であった。

*2026年4月1日から「修士課程」は、「博士課程（前期）」に名称変更予定。

【口腔科学専攻（博士課程（後期））】

○ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、修了までに所定の単位を修得し、博士論文の審査及び試験に合格した者に博士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）における独創的な研究を自立的に立案し実践できる。
2. 他の機関と協力して研究・開発できる。
3. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）に関する教育者や研究者を養成する指導力を持つ。
4. 教育、医療及び研究機関における管理能力を持つ。
5. 広い視野をもって教育と研究を遂行できる。

○ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、博士論文を厳正に審査します。

1. 研究指導論を学修して、口腔保健学や口腔工学に関する研究指導者としての能力を身に付ける。
2. 高度専門研究を通じて博士水準の口腔保健学や口腔工学に関する研究力を身に付ける。
3. 人材管理と組織運営を学修して、歯科衛生士や歯科技工士の教育・研究における管理者能力を養成する。
4. 企業や他分野の研究や労働衛生の学修から研究者としての素養を高める。

○ アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、医療保健学、特に口腔保健学や口腔工学に関する教育と研究能力を持ち歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者です。上記の考えから、大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）におけるアドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する基本的な研究能力を持つ者
2. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する学生に対する教育ができる者
3. 歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者
4. 学術研究に必要な外国語の語学力を持つ者
5. 本学大学院博士課程（後期）の履修に必要な専門的知識と技能を持つ者
6. 医療人にふさわしい倫理観を持つ者

歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、2026年度は4名の入学であった。教育課程は、共通科目、専門科目、専門研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに、3つの研究領域を設けて体系的に教育を行っている。2026年3月の博士（口腔科学）の学位取得者数は7名であった。

6. 医療保健学部・歯科衛生士研修センターの取り組み

厚生労働省による「平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業実施団体公募要領」に基づき、実施団体の委託を受け、開設した大阪歯科大学歯科衛生士研修センターは、委託期間の5年間で、延べ171名の受講生が研修を受けた。

2022年度をもって委託期間が終了し、2023年度からは附属病院管轄から医療保健学部へ移管され、同学部のリカレント教育部門として事業を継続している。大学独自事業として、従来の復職支援・離職防止の取り組みを継承しつつ、生涯学習を視野に入れた発展的事業展開を進めている。その後、再び厚生労働省から「令和7年度歯科衛生士技術修練部門運営実施団体」の選定（2025年7月4日付）を受け、一層の機能の充実を図っている。

1) 会員登録者数

2023年度より会員登録制を導入した。

2025年度（制度導入3年目）の会員登録者数は87名であり、累計会員登録者数は271名となった。

2) 研修内容の概要

2023年度から、従来の研修体系を再構成し、以下の3区分で運用している。

- ・ A 専門基礎研修（14コースから選択）
- ・ B 自己学習研修（受講者が年間を通じて自ら研修計画を立て、センターの器材や動画教材を活用して学習するコース）

- ・ C臨床研修（9診療科から選択）

修了証書の交付要件は、「A専門基礎研修」6回以上受講並びに「C臨床研修」を6日以上行うこととし、日本歯科衛生士会「第5次生涯研修制度（2）特別研修」の3単位の取得が可能となっている。

3) オーダーメイド講習・オプション研修

オーダーメイド講習として、従来の「歯科英語講座」に加え、以下の研修を実施し、受講者から高い評価を得た。

- ・ 口腔内スキャナー講習会（2名参加）
- ・ 医療ホワイトニング研修（9名参加）

4) 研修受講者数（2025年度）

- ・ A専門基礎研修：延べ118名
- ・ C臨床研修：4名
- ・ フォローアップ研修（卒直後歯科衛生士対象）：4コース実施、延べ36名参加

5) 公開セミナー

センター開設以降毎年開催している公開セミナーについて、2025年度は「進化する医療、変容する歯科衛生士～多角的リカレント教育戦略の必要性～」をテーマに、2025年11月9日に大阪歯科大学創立100周年記念館4階大講義室にて開催した。

- ・ 会場参加：29名
- ・ オンデマンド配信（11月21日～30日）を含む総受講者：54名
- ・ アンケート回答：39名

6) その他

医療保健学部口腔保健学科の学年同窓会において「ランチオンセミナーと懇親会」を企画し、最新のリカレント研修の現状紹介及び研修センター見学を実施した。これにより、センター運営の周知と学内連携の強化に努めた。

(4) 看護学部看護学科

1. 学修への取り組み

「学修者本位」の教育を実現するため、看護学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を基軸とし、体系的・組織的な教育の展開、教育・学修の質向上に取り組んだ。

○ ディプロマ・ポリシー

本学部は、以下のディプロマ・ポリシーに基づく能力を身につけ、「大学学則」に基づく授業科目及び単位数の修得等の規定要件を満たした学生に対しては卒業を認定し、学士（看護学）を授与する。

- ・ 看護の対象となる人々の人権を守り、多様な価値とその人らしさを尊重した態度を身に付け、行動することができる
- ・ 看護の基礎知識・技術を身に付け、科学的根拠に基づき計画的に健康問題の解決に

取り組むことができる

- ・あらゆる健康レベル、ライフステージにある対象の特定の健康課題に対して、自分にできる最善の看護を実践することができる
- ・地域で生活する人々をとりまく環境と支援体制を把握し、保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携・協働し、看護活動に取り組むことができる
- ・多様化する社会や健康ニーズに関心を持ち、看護を探究し、看護のプロフェッショナルとして自己研鑽し続けることができる

○カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた内容を達成するために、教育課程は、基礎科目、専門基礎科目、専門科目3科目区分から構成し、以下の方針に基づいて編成する。本学部のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりと定めた。

- ・人間理解を深め、看護の対象を多様な文化・価値をもった生活者として捉え、人々の尊厳・人権を擁護するケア態度と対人関係形成の基本を身に付ける素地を培うため、基礎科目として、「人間探究」科目群、「言語とコミュニケーション」科目群を配置する。
- ・看護の対象となる人や家族、集団、地域を多面的かつ意図的にアセスメントし、健康問題解決に適した看護技術を選択して、安全かつ効果的に、根拠に基づく計画的な看護を実践する能力を育成するために、基礎科目の「科学的思考の基盤」、専門基礎科目及び専門科目を配置する。
- ・専門基礎科目は、看護の対象である人間の身体を系統的に理解し、疾病と治療に関する基礎知識及び保健医療福祉システムに関する基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能」「疾病と治療・回復」「健康支援と社会保障制度」の3つの科目群を設け、科目を配置する。
- ・専門科目は、専門基礎科目の知識・技術を基盤とし、あらゆる発達段階・健康状態・生活の場にある人々を支援するための理論と援助技術を学び、ヒューマンケアリングを体現化する実践力を身に付け、看護の統合的学修を目的として、「基礎看護学」「地域・在宅看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と発展」の8つの科目群を設け、科目を配置する。
- ・看護専門職として地域の特性やサービス提供のしくみを理解し、地域で療養生活する人々に対して基本的な援助ができるとともに、地域包括ケアの様々な活動の場における多職種と連携・協働する力を養うための科目を配置する。
- ・看護職としてのキャリアを発展させていく意義を自覚し、自ら看護職としての能力を高め拡大していくために、将来にわたり継続的に自己研鑽を行うための基礎的能力を養うための看護キャリア形成科目を配置する。
- ・保健師教育課程を履修できる選択科目を配置する。

教育方法

学生一人ひとりの資質及び個別の能力に応じた効果的な教育を実現するために、次の教育方法を導入する。

- ・知識の理解を目的とする教育内容は、アクティブ・ラーニングやシミュレーション教育など、様々な教育方法を取り入れ、知識体系を理論的かつ統合的に学べるようにする。
- ・課題や患者情報の提供などによる、グループワークやシミュレーターをはじめとする教材及び医療器機等を活用した教学環境を整備し、学修者が主体的・能動的に学べる教育方法を実践する。
- ・自ら学ぶ力の醸成や能動的学修を支援するため、学内のネットワーク環境、LMS（learning management system）などの ICT 環境を提供し、学生個々の学修成果についてルーブリックを用いた形成的評価を行うための仕組みを整備する。
- ・きめ細やかな教育ができるよう、必要に応じて少人数グループで授業を実施する。
- ・あらゆる年齢、あらゆる健康状態にある対象の口腔健康管理に関する全人的な健康支援を「看護の視点」でとらえ、専門的援助ができる能力を育成するために、関連性の高い科目群において、看護と口腔健康管理の有機的連関を図る授業を実施する。

評価方法

公平性と透明性を確保するために、達成すべき基準をシラバスに科目ごとに定め、明示し、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価等から多面的・総合的に評価を行う。

1) 教育環境の整備・充実

教育の質保証と学修成果の可視化を基軸として、教務委員会を中心に、教育課程の運営、評価体制の整備及び学生支援の充実について、教育内容、評価、支援、制度の各側面から総合的な検討と実践を進め、看護学教育の質的向上及び学修成果・教育成果の一層の明確化に向けた基盤整備を推進した。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- ・シミュレーション教育及び OSCE の充実を重要課題として位置づけ、教員アンケートや各種調査結果を踏まえ、FD 研修会の実施、学習リーダー体制の充実、実施要領や部会申し合わせの整備を進めた。学習リーダーについては、教員による支援体制を拡充するとともに、学生希望調査に基づく適切な選出を行い、定期的な活動報告を通じて教育改善に活用した。
- ・学修成果の可視化に関して、学修成果の可視化推進部会を中心に、ディプロマ・ポリシーと整合した「看護学部コンピテンシーと到達目標」を作成し、7つのコンピテンシーを整理した上で、実習科目を軸に評価への活用準備を進めた。併せて、ルーブリックの用語、評価時期等の検討を行い、継続的改善を図る体制を整えた。
- ・入学前教育及びリメディアル教育については、効果検証やニーズ調査を踏まえ、部会の名称変更とともに活動内容の拡充を図った。更に、学修に困難を抱える学生や再履修学生への支援について、履修指導の状況と支援の進捗を確認するとともに、支援体制の充実に向けた課題を整理した。

- ・授業評価アンケート及び自己評価アンケートの改善に取り組み、回答率向上策の検討、結果の教員への公表と活用方法について協議し、コンピテンシー評価との関連を踏まえ、教務委員会内での調査・検討を進めた。
- ・試験の公正性及び適正な実施の確保を目的として、科目試験実施要領及び試験監督ルールを改訂し、成績評価に関する異議申し立てや既修得単位の認定、転学部生への対応など、履修・評価に関する諸課題についても協議を重ねた。
- ・合理的配慮を要する学生への支援体制の整備や、生成 AI の利用に関する対応方針の整理を行い、教育環境の変化を踏まえた制度面の検討を進めた。併せて、学事歴及び時間割編成、シラバスの作成・確認、教務ガイダンスの実施、次年度オリエンテーションの企画等について協議・調整を行い、教育活動全体の円滑な運営の確保に努めた。

2) 臨床実習等

実習実施体制の確立を目指し、臨地実習運営委員会を中心に体制整備を進め、実習中のトラブルや事故への対応を含め、実習が安全かつ適切に実施できるよう、実習先との連携体制の構築に取り組み、併せて実習計画及び実習内容について適宜改善・見直しを行い、臨地実習の水準確保と質の担保に努めた。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- ・臨地実習要項について、実習における遵守事項、身だしなみの基準、実習記録の取り扱い方法及び感染症対応に関する留意事項等を中心に内容の見直し・修正を行った。
- ・感染症関連の実習に関する提出書類や期限を確認するとともに、アレルギー等でワクチン接種が困難な学生への対応フロー及び接種履歴情報の管理方法について再確認した。
- ・実習準備室の運用に関するルールを策定するとともに、感染症対応に係るフローチャートを整備し、インシデント・アクシデントレポートの保管及び管理方法について検討・整備を行った。
- ・実習先との円滑な連携及び実習指導体制の充実を目的として、2025年6月5日(木)に第1回実習連絡調整会議・実習指導者セミナーを開催し、実習先等23施設から32名の参加を得た。更に、第2回を2026年6月に開催予定とし、その準備について検討した。
- ・2025年度口腔健康管理実習報告会を3月11日(水)に開催した。学生によるまとめ発表会では、実習を通して得た学びについてグループワークを行い、その成果を発表し、来学された臨床実習指導者4名にも聴講いただいた。発表内容からは、病院や指導体制等による環境の違いは一部見られたものの、実習の目的については概ね十分に理解し、学修が達成されていたと評価された。
- ・実習に関連するコンピテンシー評価について、評価の実施時期や評価内容等の在り方を検討するとともに、看護技術到達度表のシステム化に向けた検討を行った。
- ・学生への各論実習ガイダンスの企画について検討を行うとともに、2026年度実習年間計画の見直しと整備を進めた。その他、現況を踏まえた一部実習科目の配当時期の見直しについて協議を重ね、更に2027年度統合実習における受け入れ人数、配置表、ワーキンググループの在り方について検討を行った。

3) 国家試験対策

国家試験対策委員会を中心に、国家試験に関する最新情報の収集を行うとともに、対策講座及び模擬試験を計画的に実施した。模擬試験結果に基づいた学生指導を行うほか、設備の整備、国家試験対策学生スタッフの活動支援にも取り組んだ。また、自己学習教材の導入により自主学修の習慣化と継続を促進し、各学生の目標設定や国家試験対策自習室の効果的活用を通じて、模擬試験成績の向上を図るなど、総合的な国家試験対策を実施した。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- ・ 国家試験ガイダンスを前学期・後学期それぞれ実施し、前学期、1年生には看護師・保健師国家試験の概要や4年間の対策計画、学修ツールの説明を行い、2年生には国家試験対策の目的及び内容を説明した。後学期は、国家試験模擬試験の概要及びオンデマンド授業の受講目的・方法について説明を行った。
- ・ 国家試験対策学修会の運営について、学生の習熟段階に応じた対応方針及び目標を設定するとともに、学修会の目的や国家試験の出題意図について学生に周知し、成績不振や学習習慣の形成に関する対応は、他委員会との役割分担を踏まえ、必要に応じて連携を図った。
- ・ 国家試験対策学生スタッフの活動として、国家試験対策自習室の利用環境整備を進め、使用ルールの検討、掲示物や書籍の整理・管理を行うとともに、Teamsを活用し学年別に情報発信を行う体制を整備した。更に、学生主体での学修計画の立案及び実施について検討を行った。
- ・ 前学期の国家試験対策学修会は、出席率が高く、学生の多くが積極的に学修に取り組み、問題演習を通じたノート作成や活用も一定数認められるなど、アンケート結果及び教員所感から学生の自主的な学修姿勢の向上が確認された。後学期は、学生からの提案を踏まえ、Webコンテンツを活用し、ガイダンスや読解力テスト、模擬テストを実施するとともに、一部学生主体による運営を行った。
- ・ 保護者会総会において、国家試験対策として導入している学修支援コンテンツ等の活用について説明し、学生への利用促進に加え、家庭における学修支援について保護者の協力を依頼した。

2. 学生支援

1) 支援体制・支援環境の整備

学生が主体的に学修に取り組み、安心して充実した学生生活を送ることができるよう、学修支援及び学生生活全般にわたる支援体制・支援環境の整備に取り組んだ。学年担任制を中心とした継続的な支援体制のもと、修学支援、学生生活支援、学生相談、健康・メンタルヘルス支援、経済的支援、課外活動支援等を相互に連携させ、支援の充実を図った。また、学生委員会を中心に、学生生活に関するガイダンスや各種セミナーの実施、学生生活ハンドブックの見直し、学内ポータル等を通じた情報提供・注意喚起を行うとともに、意見箱や各種調査を通じて学生の多様なニーズを把握し、学修環境及び学生生活環境の改善・充実につなげた。更に、健康管理体制や経済的支援制度の周知、保護者との連携、学友会活動を通じた課外活動支援等により、学生一人ひとりの成長と自律的な学修を支える体制の整備に努めた。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- ・前学期・後学期それぞれにおいて、学年別に、学習習慣の確立やクラブ活動、アルバイト等の学生生活に関する内容をテーマとしたガイダンスを企画・実施し、学生生活の充実に向けた支援を行った。
- ・学生生活ハンドブックに関して、内容の見直し・改善を行い、ガイダンスで配布し、試験に関する説明の追記、障がい学生への合理的配慮に関する記載、自転車に関する道路交通法改正ページの追加、学生相談室の予約方法変更など、主な改訂点について周知を図った。
- ・大阪府警枚方市少年サポートセンターから講師を招き、学部学生全員を対象として、注意喚起を目的とした薬物防止啓発活動研修会を2025年8月1日（金）に実施した。
- ・学生生活を送る上での意見や改善要望等を把握するため、WEB意見箱を設置し、学生からの意見・要望を随時受け付けている。2025年度は15件の意見・要望が寄せられ、授業や実習、国家試験対策、キャリア支援、施設・設備及び食堂の充実等が主な内容であった。これらの意見について、担当委員会等で検討の上、学内ポータルを通じて回答内容を学生に周知し、寄せられた意見を踏まえ、自習室利用時間及び学舎開館時間の延長、昼食利用場所の拡充、食堂座席数の増加、電子レンジの設置等、学生の学修環境及び生活環境の改善を図った。
- ・学修状況に課題を抱える学生への支援体制について、より手厚い支援の必要性を踏まえるとともに、教員体制を考慮した学年担任の配置方法等について、継続的に検討を行った。
- ・臨地実習に必要な感染症対策として、保健室を中心に、学生を対象とした抗体検査及びワクチン接種を安全かつ着実に実施した。
- ・学生相談室について、学生の利用状況及びニーズを踏まえ、相談員配置や開室時間、利用方法等の見直しを検討し、担当部署に依頼の上、改善を図った。
- ・学生への経済支援策の一つである高等教育の修学支援制度について、制度説明の実施、関係資料の配布及び申請手続きに関する支援等を行い、制度の円滑かつ着実な運用に努めた。その結果、令和7年度（2025年度）における授業料減免の対象学生数は、年間合計49人（第Ⅰ区分12人、第Ⅱ区分4人、第Ⅲ区分2人、第Ⅳ区分（多子世帯）31人）となった。
- ・本学「障がいのある学生の修学等の支援に関する指針」に基づき、障がいのある学生が修学等において他の学生と等しく教育等の機会を得られるよう、適切な支援、合理的配慮を行うことを目的として、「看護学部における障がいのある学生の修学等の支援についての取扱要領」を制定した。

2) キャリア支援

学生委員会に置くキャリア支援部会を中心に、学年進行に応じたキャリアセミナーや各種ガイダンスの実施、求人・就職情報の提供、学生の利便性を重視したキャリア支援室の整備及び進路・就職活動ロードマップの策定を通じて、体系的かつ多面的なキャリア支援体制の充実を図った。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- ・看護学部学生が就職活動及び進学準備を円滑に進められるよう、ガイドブックとして「就職・進学サポート BOOK」を作成し、学生に配布するとともに、活用方法等について説明を行った。
- ・学生が利用するキャリア支援室求人検索ナビについて、学生の利便性向上と円滑な就職活動支援を目的として、情報掲載方法や利用の流れ等を含めた運用方針を整理した。
- ・就職活動等による授業の公欠に関して、学生が安心して就職活動に取り組める環境を整えるため、現行規程にその取り扱いを定め、制度の整備を行った。
- ・キャリア支援計画の策定に向け、進路・就職に関する調査時期、教員の役割分担、就職セミナーの実施時期や就職説明会の開催形態等について、継続的に検討を行った。
- ・学修成果可視化システムにおいて、学生が在学中の学修活動や課外活動等を自ら記録し、将来の就職活動や進路選択に活用できるよう、新たな記録フォーマットの新設について検討を行った。
- ・2025年度キャリアセミナー・ガイダンス実績
 - 2025年12月22日(月) 2年生(1期生)「動画で学ぶ病院・仕事研究講座」
 - 2026年3月26日(木) 2年生(1期生)「看護職として働く、自分に合った働く場所を考えよう」
 - 2026年3月26日(木) 1年生(2期生)「就職活動準備講座」

3. 学部独自の取り組み

1) 看護学部保護者会

- ・保護者会(2025年4月2日(水)入学式終了後)第1学年保護者が参加
- ・保護者会総会・教育懇談会(2025年6月22日(日))第1・第2学年60組参加

2) “枚方ひこ防’z 2025” 防災イベントに参加(2025年11月22日(土))

看護学部教員が中心となり「災害時にも命を守る口腔ケア ～ケア方法と備えのポイント～」をテーマに、日々のお口のお手入れと災害時の口腔ケアの重要性をパネルや動画で紹介し、啓発資料の配布等を行った。

4. 地域連携・実践研究センター

地域連携・実践研究センターでは、毎月開所日を設定し、健康に関する相談、健康教室、地域交流サロンの貸し出しなど、地域交流・地域貢献活動を行っている。

1) 年間利用者数 ()内は前年度比

地域連携・実践研究センター 311名(+56名)

地域交流サロン 629名(+334名)

健康教室 175名(+64名)

2) 看護の日イベント(2025年5月12日(月)～16日(金))

楠葉西学舎で、看護に関する展示、本の設置、スライドショー放映など啓発活動を行った。参加者35名

3) 大阪・関西万博への出展 (2025年6月26日(木))

関西パビリオン多目的ホールの1ブースを使用し、健康測定など実施した。参加者74名

4) アカデミック講演会 (2025年11月8日(土))

テーマ「次なるパンデミックに備えて」(外部講師)

大学祭(楠葉祭)に併せて、楠葉西学舎講義室で開催。参加者60名

5. 学生の受け入れ

○アドミッション・ポリシー

看護職は、患者を中心にその家族、医療チームのメンバーをつなぎ、安全で安心な治療の支援と、あたたかなケアを実現する「要(かなめ)」となる存在である。

本学部の教育目的は、「博愛と公益」という建学の精神に基づき、予測不可能な時代にあっても、ヒューマンケアリングを基盤とし、人々の生命を守り、その人らしい生活の営みを支えるために、科学的根拠に基づいた確かな看護実践力を備え、医療チームの一員として地域の保健・医療・福祉に貢献できる探究心と自己研鑽力を身に付けた人材養成である。したがって、本学部では、当該人材養成に必要な入学生の確保に向け、多様な入試選抜方式を用意し公正かつ厳正な選考を行う。本学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

【求める人物像】

- ・命を大切に感じ、人をいつくしみ、人の可能性を信じ、理解するという他者との関係性の構築に前向きに取り組むことができる者
- ・周囲に対する協調性や思いやりの心を持ち、相手の個性を尊重し、相手の話に耳を傾けることができる者
- ・保健・医療・福祉分野に関心をもち、看護学に関する学習に意欲的に取り組むことができる者
- ・専門知識修得のために最低限必要な高等学校までの基礎学力を有する者
- ・将来、保健・医療・福祉の現場で看護実践家として、看護の力をもって社会に貢献する意思のある者

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てるために、高校教育で培われた「学力の3要素」(1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力、3.主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識・思考・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことができる者が望ましい。

□知識・技能

- ・高等学校の教育課程において、幅広く教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎学力
- ・看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科(生物・化学)に関する基礎学力

□思考力・判断力・表現力

- ・自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる
- ・他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝えることができる

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）、一般選抜（特待生チャレンジ2科目型・3科目型）、一般選抜（後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることを目指す。

□知識・技術

個別学力検査、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力検査、面接、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、調査書（課外活動）、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2025年に合計6回のオープンキャンパスを開催し、延べ497名が参加した。

在学生在がボランティアスタッフとして参加し、学部紹介、キャンパスツアー、体験型ミニ授業、学生トークショー、最新入試説明、保護者対象説明、個別相談、食堂ランチ体験などのプログラムを実施した。

（実施場所）楠葉西学舎

第1回	：3月20日（木・祝）	43名
第2回	：5月25日（日）	71名
第3回	：6月15日（日）	66名
第4回	：7月26日（土）	113名
第5回	：8月16日（土）	158名
第6回	：9月15日（月・祝）	46名

看護学部の認知度を高める大学広報の一環として、受験雑誌、Web媒体、京阪電車交通広報の掲出等、さまざまな広報を展開した。

また、一般選抜（前期3教科型）の受験生を対象とした「入学者選抜成績優秀者特待生制度」を設け、優秀な学生の確保に努めた。この制度で特待生に認定された者のうちB種（55万円減免）で2名の学生が入学したことから、一定の効果があったのではないかと考える。

2026年度入学者選抜区分別の志願者数は、総合型選抜で36名（-18名）、ファミ

リー特別選抜で4名(+3名)、学校推薦型選抜で103名(-18名)、一般選抜(前期2教科型、3教科型・全学部日程・後期)で162名(+50名)、大学入学共通テスト利用選抜(前期・後期)で32名(+8名)となっており、合計で337名(+25名)の志願者であった(カッコ内の数字は前年度比)。そのうち330名が受験、155名が合格し、最終的に今期(3期)では、募集人員を上回る94名(男子6名、女子88名)の入学者を確保することができた。

6. 大学院看護学研究科看護学専攻(仮称)について

大学院看護学研究科看護学専攻(仮称)の2027年4月開設に向けた準備を加速化した。今後内容は変更となる場合があるが、課程名称、入学定員、養成する人材像は下記のとおりであり、2026年3月4日付で文部科学省へ設置認可申請を行った。

○博士前期課程

【入学定員】6名(予定)

【取得できる学位】修士(看護学)

【養成する人材像】

高い倫理観を持ち、論理性と批判的思考力に裏付けられた高度な専門的知識を備え、看護学における研究過程を計画的に遂行する研究能力を培い、地域や多職種と協働して課題を解決し、保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力を有する人材

○博士後期課程

【入学定員】3名(予定)

【取得できる学位】博士(看護学)

【養成する人材像】

高度な倫理的判断力を持ち、看護学の高度な専門性に立脚し、保健医療を取り巻く複雑かつ変化する環境に対応し得る科学的知見と俯瞰的な視点を持ち、自立して高水準の研究を遂行し、確かな教育力と研究成果の社会実装・展開力を兼ね備え、社会の創造に貢献できる人材

(5) 研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2025年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会は、集合形式では行わず、全教員に関係資料をメールで配信し、各種問い合わせに随時対応した。

○令和7年度科学研究費助成事業(科研費)(新規+継続)

基盤研究(B)	4件
基盤研究(C)	54件
挑戦的研究(萌芽)	1件
若手研究	20件
研究活動スタート支援	4件
合計	83件

科研費交付額	直接経費	9330万円
	間接経費	2799万円
合計		1億2129万円

(※ 基金分・継続課題については交付申請書に記載の額で計算)

2. SDGs（持続可能な開発目標）関連の研究・教育の推進

本学は、楠葉学舎所在の枚方市の取り組みである「枚方市SDGs推進登録制度」に賛同（2022年8月29日付認定、枚方市所在の大学としては初）し、パンフレット『大阪歯科大学 SDGs 推進に向けて わたしたちにできることから』に掲載されている特色ある研究・教育を2025年度においても推進した。

3. 知的財産関係

本学は、「知的財産取扱規程」において、教職員等の発明及び特許等に関する取扱を規定し、本学における知的財産活動に関する事項について審議及び決定し、職務発明等の取扱に関する審査を適正かつ公正に遂行し、知的財産権の実施及び管理並びに活用について審議するために知的財産委員会と発明検討委員会を設置している。2025年度は、発明届出2件、出願審査請求2件、年金納付2件について審査を行い、いずれも学長承認が与えられた。また、JST（科学技術振興機構）の知財活用支援事業に採択され、同機構からの支援を得てPCT出願（国際特許出願）を1件実施した。

4. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

本学は、研究に対する基本的な考え方として「大阪歯科大学における公正な科学研究の推進について」をホームページに掲載している。

研究不正行為防止に関しては文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会及び看護学部教授会において確認後、同省に提出している。

公的研究費管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会、医療保健学部教授会及び看護学部教授会において確認後、監事の確認を経て同省へ提出している。

啓発活動として「公的研究費の不正使用防止に係る啓発活動（No.1～No.4）」を教職員全員に対してメール配信を行い、所属長に所属部署の構成員への周知徹底を依頼した。

公的研究費採択者（分担者含む）を対象に、コンプライアンス研修を兼ねた科研費執行説明会を2025年8月5日に天満橋学舎、8月8日に楠葉学舎で開催した。

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として導入した一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングを研究倫理教育にも利用し、科研費申請の条件としている。

大学院生に対しては研究倫理の講義を受講後、APRIN e ラーニングを受講することとしている。学部学生の講義においても研究倫理の内容を含む授業を行っている。

また、公的研究費の取扱いに係る事務職員についてもAPRIN e ラーニングを受講することとし、関係者全員が受講している。

適切なデータ解析についての教育・訓練として、研究不正防止計画推進委員会主催による研修会を開催、京都薬科大学の田中 智之 教授を講師としてお招きし、「健全な研究環境をつくる—研究室のマネジメントとデータ管理」について講演いただいた。

5. 組換えDNA実験に関する安全管理について

本学は、組換えDNA実験を計画し、実施する際に遵守すべき安全確保に関する基準を示し、実験の安全かつ適切な実施を図ることを目的として「組換えDNA実験安全管理規程」を制定し、組換えDNA実験に関する事項について、実験計画の法律・省令等の適合性等を調査・審議するために組換えDNA実験安全委員会を設置している。2025年度は研究計画2件の審査を行った。

また、実験従事者へ実験開始前に法律・省令及びこの規程を熟知させ、危険度に応じた微生物安全取り扱い技術等の教育訓練を行っている。2025年度は、6月25日に「組換えDNA実験安全講習会」を開催し、その後はオンデマンド形式で実施した。

6. 医の倫理委員会について

本学における人を対象とする医学系研究が、世界医師会ヘルシンキ宣言、関連法規及び国の指針に基づいて適正に実施されるよう、医の倫理委員会において人を対象とする歯学・医学・看護学研究実施規則に基づき申請された研究計画の審査判定及び審議等を行っている。2025年度は63件の研究課題について審査を行い、61件の学長承認が与えられた。また、看護学部開設に伴い、医の倫理委員会に看護学研究の研究計画を審査するための看護部会を設置し、2025年度は看護学研究の研究計画8件の審査を行い、6件の学長承認が与えられた。

7. 動物実験委員会について

本学は、動物実験等を科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から適正に行うために「動物実験規程」を制定し、研究者から提出された動物実験計画の審査等を行うために動物実験委員会を設置している。2025年度は動物実験計画書82件の審査を行い、79件の学長承認が与えられた。

また、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な基礎知識の習得を目的として教育訓練を行っている。2025年度は、毎月、オンデマンド形式で実施した。

8. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」においてその内容の充実に努めている。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』をまとめている。2021年目録まで冊子で作成していたが、2022年目録からは冊子体は作成せず、全体を学内ホームページに掲載するとともに、研究室ごとに本学ホームページに掲載している。

9. 本学にけるオープンサイエンスへの取り組み

2025年4月1日付けでポリシー等の整備を行い、推進体制の充実を図った。

- ①大阪歯科大学オープンアクセスポリシー
- ②大阪歯科大学オープンアクセスポリシー実施要領
- ③大阪歯科大学研究データ管理・公開ポリシー
- ④大阪歯科大学研究データ管理・公開ポリシー解説
- ⑤大阪歯科大学オープンアクセス推進委員会規程

また、学内ポータルに「オープンサイエンスへの案内」ページを作り、各種情報を掲載している。

10. その他の補助金等について

2025（令和7）年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費以外の主な外部機関等からの補助金等の状況は、以下のとおりであった（附属資料にも掲載）。

- 令和7年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）
（一般補助＋特別補助） 2億9840万3000円
- 令和7年度「次世代型医療機器開発等促進事業 医療機器等の開発・実用化促進のためのガイドライン策定プロジェクト」（日本医療研究開発機構）研究開発課題名「SaMDの品質管理システム（SaMD-QMS）確立に必要なソフトウェアライフサイクルプロセスの要求事項に係るガイダンス作成と考え方に関する研究」（代表者：谷城 博幸 教授）
- 令和7年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）（厚生労働省）研究科題名「医療機器及び体外診断用医薬品の一般的名称の策定・選定に係る環境整備に向けた考究」（代表者：谷城 博幸 教授）
322万4000円
- 大学等における修学の支援に関する法律による令和7事業年度授業料等減免費交付金（日本私立学校振興・共済事業団） 1億5635万8200円
- 令和7年度臨床研修費等補助金（歯科医師）（厚生労働省） 7747万 365円
- 令和6年度医療施設運営費等補助金（歯科衛生士の人材確保実証事業、厚生労働省）
240万9000円
- 大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金（大阪府）
（1回目）22万4000円、（2回目）45万1500円
- 大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金（大阪府）
（1回目）52万5000円、（2回目）105万円

(6) 国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外研修に参加した学生が講演を行っている。2025年4月1日現在、海外17大学と協定を締結している（学生交流を行っているのは12大学）。

・ Forum for International Students (FIS) について

本学学部生・大学院生及び協定校を含む海外の学生が、オール英語で研究発表を行う「Forum for International Students (FIS)」を開催し、学生・教職員が自由に聴講することによって、教育研究活動の推進に貢献している。通算第9回目となる2025年度は、7月8日に本学（会場：楠葉学舎）にて開催された。

・ 学生及び教職員の派遣・交流について

四川大学華西口腔医学院、空軍軍医大学口腔医学院、コロンビア大学歯学部及びキングス・カレッジ・ロンドン歯学部への学生短期海外派遣並びに上海交通大学口腔医学院、南方医科大学口腔医学院、四川大学華西口腔医学院、空軍軍医大学第三附属病院、北京大学口腔医学院、山西医科大学口腔医学院、昆明医科大学口腔医学院、遵義医科大学口腔医学院からの受け入れなど海外の学生及び教職員の派遣・交流が実施された。

・ 在籍留学生について

生活相談、日本語ミニレッスンなどを随時行っている。また、現在留学生増加の背景に合わせて、「Handbook for international students (旧外国人留学生の手引き)」の内容を刷新し、「国際交流危機管理マニュアル」と併せて配付し、きめ細かい支援を行った。

(7) 社会連携・社会貢献

本学は、枚方市、近隣大学、企業等との連携事業を推進するとともに、国内の他の大学や研究機関との交流を促進し、人々の口腔の健康・全身の健康の維持向上に寄与するとの「社会連携・社会貢献の方針」を定め、教育・研究・臨床の成果を適切に社会に還元することをホームページに明示している。（附属病院、医療イノベーション研究推進機構の取り組みについては、各項目を参照のこと。）

・ 第31回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「口腔と身体のフレイル予防で健康長寿を獲得しよう！」をテーマに、大内 尉義・虎の門病院名誉院長/東京大学名誉教授、狩谷 明美・本学看護学部教授を講師に、本学天満橋学舎（2025年8～9月）及び楠葉学舎（2026年2月）で開催し、延べ受講者数834名であり好評を得た。

・ 枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。枚方市の審議会（保健所運営協議

会、健康増進計画審議会）へ本学教員を派遣し、市政運営に協力している。さらに、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。また、枚方市民の健康増進や地域医療の充実を目指す「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」についても運営に協力した（上記の大阪歯科大学公開講座（楠葉学舎で開催）は、「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」連携事業）。

[ひらかた市民大学]（2025年11月8日）

特色ある5大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。本学は、楠葉学舎3号館1階大学院講義室において、狩谷 明美・本学看護学部教授が「フレイル・認知症予防の最前線！-大学のフレイル予防教室だからできること：多職種包括的アプローチについて-」をテーマに講演を行った（「学園都市ひらかた推進協議会」事業）。

[子ども大学探検隊]（2025年11月9日）

毎年、次世代を担う子どもたちに将来への夢を育むきっかけをつくる取り組みとして実施されているものである。2025年度は、「からだを知ろう！」をテーマに、枚方市内の小学生（4年～6年）23名が、本学教員と学生スタッフとともに、歯の数や生え変わりの仕組みなどを学んだ（「学園都市ひらかた推進協議会」事業、住まいと介護研究所協賛）。

・その他の社会連携・社会貢献事業

[ひらまなカレッジ健康セミナー]（2025年11月20日）

枚方市立楠葉生涯学習市民センター主催であり、海原 康孝・本学歯学部教授が「0歳からはじめるお口の健康習慣」をテーマに講演を行った。

（8）附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎、楠葉西学舎に分室を置き、更に利用サービスの充実を図った。また、2024年8月より、図書館システムをリプレイス（システムのクラウド化、図書館ホームページリニューアル）している。そのほか教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2025年度>

・蔵書冊数	145,190冊
・年間受入資料冊数	2,571冊
・年間払出資料冊数	350冊
・雑誌所蔵種類数（冊子体）	2,210種類
・電子ジャーナル（購入のみ）	9,307種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。楠葉分室においては、2025年度より平日のみ、夜間開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌 Web 版等の他に、Journal Citation Reports (JCR)、国立国会図書館デジタルコレクション等の利用が可能である。

文部科学省が推進する学術情報の公開について、本学ホームページに「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、学位論文全文は学位授与後1年以内に掲載した。

また、図書館運営委員会では、例年、図書課予算の経費削減を行ってきたが、近年、円安ドル高による洋雑誌等の価格高騰を踏まえて大幅な見直しを行い、2026年度予算の適正化に努めた。

施設・設備については、アルコール消毒液、空気清浄機の設置を継続実施した。

その他、2025年度より事業局理事及び教育研究委員長を務め研究会を実施した。また、日本医学図書館協会評議員（近畿地区）として、対外的な協会運営に参画した。

【医療イノベーション研究推進機構 (TRIMI)】

2021年11月に、「研究実験センター」「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」の3センターを擁する「医療イノベーション研究推進機構(Translational Research Institute for Medical Innovation: (TRIMI))」が発足した。2022年10月には、「事業化研究推進センター」に2部門（「データサイエンス部門」「地域医療等連携部門」）を新設し、多様な研究推進への機能強化を図った。

2025年度は、研究実験センターに教育研究用機器備品として、レーザ顕微鏡、プレートリーダー、フーリエ変換赤外分光光度計等を新たに導入し、初心者向けに機器の利用説明会や動物実験実技講習会を行うことにより、教員・大学院生の研究推進に寄与した。

事業化研究推進センターでは、企業や学外の研究機関等に対して、製品化の開発支援や医療機器等の開発支援を行った。また、2023年度に立命館大学と締結した「学術交流協定」に基づき結成した「口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム」では、2026年3月26日に幹事会や企業進捗報告会を行い、参画企業各社より実証事業の進捗状況について報告が行われた。

TRIMI各センターでの講演会・講習会等の開催状況は、次のとおりである。

[研究実験センター]

- ・2025年度TRIMI研究実験センター講演会

日時：2026年1月22日

演題：「AIを活用した学業成績とジェネリック・スキルの関連分析」

講師：益野 一哉・本学歯科医学教育開発センター教授

[先進医療研究センター]

- ・先進医療研究セミナーの開催

第9回セミナー（オンデマンド開催）

日時：2025年5月19日

演題：「幹細胞を用いた歯周組織再生治療について」

講師：岩崎 剣吾・本学 TRIMI 先進医療研究センター准教授

第10回セミナー

日時：2025年8月22日

演題：「細胞外小胞入門：基礎から臨床応用まで」

講師：山元 智史氏（国立医薬品食品衛生研究所）

[事業化研究推進センター]

・データサイエンス部門講習会

第4回講習会

日時：2025年6月3日

演題：ヘルスデータサイエンス入門 ～医療・健康データの活用を目指して～

講師：山本 景一・本学事業化研究推進センター教授

第5回講習会

日時：2025年10月31日

演題：「合成患者データ」は臨床研究と医学教育をどう変えるか：
医学分野の生成 AI 利用を考える」

講師：山本 景一・本学事業化研究推進センター教授

・企業向け「第4回医療機器開発講習会」

日時：2025年11月21日

演題：「歯科医療機器・材料の開発に資する活動報告」 ほか

講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授 ほか

・企業向け公開講座

医療機器薬事開発講座 2025「医療機器の規制とレギュラトリーサイエンス」

日時：2025年7月～2026年1月（全6回）

演題：「医療機器評価（医療機器の薬事規制、市販後安全対策）」 ほか

講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授 ほか

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器の更新やソフトウェアのバージョンアップといった既存インフラの維持・運用・管理並びに新規ネットワークインフラの導入・構築を行った。

ODUnet（大学系及び病院系ネットワーク）の運用管理のほか、学内ホームページにてセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

大学 ICT 推進協議会（AXIES）の会員校として、協議会が主催する各種のイベントに参加することにより日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育の質の向上に資する情報提供に努めた。

2025年度は、以下のインフラの更新・導入・構築、各種ソフトウェアのバージョンアップ等を行った。

- ①OVS-ESライセンスに基づくMicrosoft365 (A3) の契約締結
- ②ウィルス対策ソフト (Apex One) のライセンス契約更新
- ③楠葉学舎 (第5講義室、大学院講義室) のWi-Fi 設備敷設
- ④EOL 機器の更新
 - 1) 楠葉学舎ディストリビューションスイッチ : 2号館、5号館設置機
 - 2) コアスイッチ : 楠葉学舎、天満橋学舎 (大学系) 設置機
 - 3) 学内ファイアウォール更新 (天満橋学舎設置機)
 - 4) 内部 DNS サーバー構築 (楠葉学舎設置機)
- ⑤NTT 京都データセンター (Step サーバー) に接続するためのネットワーク環境構築
- ⑥脆弱性対応のためのソフトウェアのバージョンアップ
 - 1) インターネットファイアウォール (天満橋学舎設置機) : 1台
 - 2) 仮想基盤に搭載された学術認証フェデレーション (学認) 認証サーバー
- ⑦学内ポータルサイト構築
- ⑧施設予約システム構築
- ⑨仮想大学 LAN 環境構築

・ODUnet の運用管理

[大学系情報ネットワーク]

楠葉 (楠葉西学舎を含む)・牧野・天満橋 (創立 100 周年記念館を含む) の各学舎に敷設されたネットワークインフラの稼働状況を監視し、障害発生時の迅速な対応に備えた。

[病院系情報ネットワーク]

病院情報システムの運用サポートの他、システムサーバーの稼働状況のチェック、関連するネットワーク機器の目視巡回などの業務を行った。

(9) 教員力の向上

1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてファカルティ・ディベロップメント (FD) セミナーを下記の内容で外部講師を招聘するなどして開催した。3学部合同セミナーでは、どの分野でも共通して直面している教育課題をテーマに、また学部及び大学院ごとのセミナーでは専門領域に特化した内容で実施した。なお、3学部合同のセミナーは本会場である100周年記念館に行くことができない教員のためにサテライト会場を楠葉学舎、牧野学舎、楠葉西学舎に設置してオンライン中継を行った。

そのほか、歯学部及び看護学部では上記以外に独自テーマでFDを行った。

■ 3学部合同FDセミナー

<第1回>

・日程 : 2025年5月27日 (火) 17:00~18:30

- ・会 場：創立 100 周年記念館 4 階大講義室（サテライト会場あり）
- ・テーマ：口は健康と病気の源！全身健康に繋がる最新の医療を求めて
- ・講 師：山下 敦・大阪歯科大学名誉客員教授/岡山大学名誉教授
- ・出席者：174 名

（天満橋学舎：105 名、楠葉学舎：31 名、牧野学舎：15 名、楠葉西学舎：23 名）

【講演内容】戦後復興始まりの発展期から現在の多様化期に至るまで、対症療法から原因療法への移行、口腔ケアと全身疾患の関連性など、歯科医療の歴史的変遷について講演いただいた。また、チュートリアル教育の導入や、医科歯科連携の包括診療を含んだ「新しい歯科大学病院」の在り方についてもお話しいただいた。

<第 2 回>

- ・日 程：2025 年 7 月 3 日（木） 17:00～18:30
- ・会 場：創立 100 周年記念館 4 階大講義室（サテライト会場あり）
- ・テーマ：学習意欲を高める反転授業の設計を考える
- ・講 師：岩崎 千晶・関西大学教育推進部教授
- ・出席者：170 名

（天満橋学舎：105 名、楠葉学舎：33 名、牧野学舎：9 名、楠葉西学舎：20 名）

【講演内容】学習意欲を高めるための反転授業の導入方法、講義映像の構成、そして対面授業との効果的な接続について解説いただき、完全習得学習型と高次能力育成型という二つの反転授業の種類や、学習動機を高める ARCS モデルなどの理論的枠組みなど教育実践における具体的な指針についてもお話しいただいた。また、ワークショップの実践を行った。

■歯学部 F D セミナー

<第 1 回>

- ・日 程：2025 年 6 月 13 日（金） 17:30～18:30
- ・会 場：創立 100 周年記念館 4 階 大講義室
- ・テーマ：CBT 問題作成時の注意点

ー良問、悪問の説明および本学提出問題で不採択となった問題の解説ー

- ・講 師：森田 学・宝塚医療大学教授
- ・出席者：115 名（対象：歯学部教員のみ）

【講演内容】本学の採択状況の解説から、問題の採択率向上を目指し、問題作成時の注意点を話しいただいた。具体的な作成のガイドラインから、使用すべき用語や視覚素材の取り扱いに関する詳細なルール、また実際の不採択問題を例に採択のポイントを解説いただいた。

■看護学部 F D 研修会

- ・第 1 回（2025 年 9 月 22 日（月））

テーマ：①シミュレーション教育推進部会研修会「シミュレーション教育の定着化に向けた課題解決プロセス」、②CBT・OSCE対策部会研修会「看護基礎教育における OSCE

活用の基本と運用方法」(外部講師)

- ・第2回(2026年3月17日(火))

テーマ: 研究推進部会研修会「看護学分野におけるデータベースの利活用・構築の現状と課題」(外部講師)

- ・第3回(2026年3月19日(木))

テーマ: シミュレーション教育推進部会研修会「シミュレーション教育において学生の判断力を養うオープン・クエスチョン; 考えさせるコツとは?」(外部講師)

2. 教員組織について

「教員組織の編制方針」に基づいて、教育、研究、臨床にそれぞれ活躍できる体制の充実に努めた。2025年5月1日現在の法人、歯学部、医療保健学部、看護学部の専任教員数は、219名であり、十分な陣容を堅持している。

3. 教員評価について

「大阪歯科大学教員評価の実施に関する規程」に基づき、①教育活動、②研究活動、③臨床活動、④学内、社会貢献の4つの領域において、教員個々の到達目標を明確にし、役割基準評価及び卓越領域評価を実施した。この結果は、教育実践で顕著な成果をあげた教員の表彰(グッド・ティーチャー賞)や、任期制教員の再任用審査に活用している。

(10) 附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習、臨床研修を中心とした歯科医学の教育・研修を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2025年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。2025年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザへの感染対策を徹底した結果、院内クラスターを発生させることもなく、年間を通して附属病院としての機能を維持し、地域医療や臨床教育等に係る社会的貢献に寄与してきた。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月より理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会(以下、「改革委員会」)が設置され、患者数増加や病院収支の改善を目的として取り組みを行ってきた。

改革委員会では毎月の来院患者数目標達成状況や医療収入等の病院統計に係るさまざまな資料が提示され、その内容を精査してきた。また、その結果は附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会において、病院長による提言等を通して周知され、経営改善のための重要な指標として示されてきた。すなわち、改革委員会での議論が最終的に附属病院

にフィードバックされ、患者数増加や収支改善に寄与してきたものである。

従前の改革委員会では（１）患者数の増加、（２）診療時間の延長、（３）「診療分野教員」の増員、（４）自費診療の増加、（５）訪問・在宅診療への積極的参入、（６）新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われてきたが、さらに２０２０年度以降は収支の改善に重点を置き、人件費や医療経費を精査した上で、診療科毎の収支状況の評価を積極的に進めた。なお、医員個人の診療収入の評価は、昇任、任期更新の評価基準になっているため、診療意欲向上にもなり附属病院の黒字化実現への一助となっている。

また、人事的には２０１９年１０月から臨床系講座の主任教授を科長とせず、各診療科の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長及び診療主任に据えるという大幅な改革を継続しており、その結果、前年度に続き、次項に示す医療収入と患者数を確保した。

２．２０２５年度患者数・医療収入等

２０２５年度の開院日数は２４１日（土曜日診療含め２９０日）で、外来患者数は２５４,１８１人（昨年度２５５,６０５人）、１日平均患者数は１,０３２人（昨年度１,０３２人）となった。

なお、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療については、２０２５年度の累計患者数は９,８８１人（昨年度１０,２４６人）であった。

医療収入についてみると累計で初めて３０億円を突破する３０億７４万４１７３円となり、これは前年度収入（２８億５３６０万９５１６円）を１億４７１３万４６５７円上回る結果となった。

３．病院情報システム（電子カルテ）について

２０２２年度に病院情報システム更新があったが、２０２５年度中も改修更新による大きなトラブルは無く、医療保険算定請求に係わるチェック等の各種要望に対応した。近年ランサムウェア攻撃によるシステム障害報道がある中で、各種委員会での職員への注意喚起、病院システムのセキュリティの見直しを行った。また、次期病院情報システム計画検討に関する作業部会が発足しネットワーク、セキュリティ、災害対策、システム更新等について協議した。

４．歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団 阪神福祉センター診療所へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

加えて当院では従前より国家公務員共済組合大手前病院（大阪府中央区）、及び関西電力病院（大阪府福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきた。

また訪問診療ではないが、口腔リハビリテーション科の協力のもと、大阪府下の介護老人保健施設入所者を当院外来で受入診療する取組を展開した。２０２５年度は３名を受入、年間約４万８千円の病院収入増加となった。

5. 歯科医師臨床研修

2025年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて104名であり、研修歯科医を受け入れた協力型（I）臨床研修施設は51施設であった。下表に2020年度から2025年度までの当院の研修歯科医受入数の推移を示す。なお、2025年度に本事業に対して交付された臨床研修費等補助金は7747万365円で前年度に比べ305万7365円の増額となった。なお、補助金増額の主な理由は、補助金基準額の「目標達成管理」に係わる評価が「A」から「S」に向上し、研修歯科医が前年度に比べ10名の増員があったためである。

■研修歯科医受入数（人）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
単独型	18	17	14	18	15	15
複合型	87	89	62	74	79	89
計	105	106	76	92	94	104

6. 健康セミナーについて

当院では患者だけではなく一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月から開催しており、多くの参加者から好評をいただいた。

2025年度は、総合診療科、特別支援歯科、矯正歯科の協力を得て、3回開催した。

7. 病診連携講演会

病診連携講演会は、2026年3月14日に開催し、岡安一郎准教授（歯科麻酔科）を講師として26施設32名の参加があった。また、医療機関からの患者紹介については、2025年度も例年同様に約2,900の医療機関から、紹介された新患者数は14,521人（前年比107%）、初診患者の紹介率は約73%に達している。このように多くの患者を紹介いただいていることを重視し、次年度以降、地域の医療機関との連携を確保するためにも本事業の実施を念頭に置いている。また、2025年に7人以上の紹介をいただいた497医療機関を評価し、「医療連携施設認定証」を交付した。

8. 地域医療連携

地域歯科医療の中核として、2025年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、歯科用コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼は高額な検査故に2025年度は318件で、年間約850万円の収入を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2025年度は下記の日程で開催し、多数の教職員の受講により当院の医療安全と院内感染対策の一助としたが、新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOM等のネット配信、オンデマンド講習を実施するなど、講習会場の密を避けるため講習方法を工夫し、感

染対策に万全を期してきた。

- ・ 院内感染対策講習会（カッコ内は参加者数、以下同）
 - 2025年4月3日「院内感染対策①」（112名）
 - 4月3日「院内感染対策②」（112名）
 - 4月10日「あなたと大切な人を守るために」（151名）
 - 5月15日「薬剤耐性菌の出現を防ぐための歯科領域における
抗菌薬適正使用とは」（117名）
 - 7月17日「やめられない、たまらない♪ 感染対策」（161名）
 - 10月2日「POSTコロナのインフルエンザ対策」
「インフルエンザワクチンの接種スケジュール」（101名）

- ・ 医療安全講習会
 - 2025年4月1日「薬物に対する正しい知識」（106名）
 - 4月2日「診療用放射線安全利用研修」（105名）
 - 4月3日「医療安全講習①（救急蘇生）」（107名）
 - 4月3日「医療安全講習②（概論、歯科治療時の偶発症と対策）」（107名）
 - 4月3日「接遇研修」（106名）
 - 4月16日「中央手術室オリエンテーション」（57名）
 - 10月23日「医療メディエーション」（123名）
 - 2026年1月13日「2024年度 患者アンケートの結果報告」（140名）
 - 2026年1月28日～2月27日「医療メディエーション」オンデマンド（97名）
 - 2026年1月28日～2月27日「2024年度 患者アンケートの結果報告」
オンデマンド（69名）
 - 2026年2月16日～3月9日「診療用放射線安全利用のための研修」
オンデマンド（303名）

- ・ 医薬品安全管理講習会
 - 2025年 4月1日 「医療安全講習（医薬品①）」（107名）
「医療安全講習（医薬品②）」（107名）
 - 8月7日 「医薬品について」（142名）

- ・ 医療機器安全管理講習会
 - 2025年 4月2日「医療安全講習（医療機器①）」（107名）
「医療安全講習（医療機器②）」（107名）
 - 2026年 3月3日「ツインパワータービンの安全な使用方法について」（103名）

- ・ 医療ガスに係る安全管理のための職員研修
 - 2025年 9月29日 「医療ガスの安全管理について ー医療ガスのヒヤリ・ハ

ット事例と対策一」(85名)

10月28日～11月28日「医療ガスの安全管理について－医療ガスのヒヤリ・ハット事例と対策一」(235名)

(11) 施設・設備(教育研究等環境)の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「楠葉・牧野・天満橋各学舎の施設・設備を可能な限り同水準に整備するよう努める。」としている。2025年度の主な施設・設備の整備は、以下のとおり完了した。

[楠葉キャンパス]

- 熱源設備更新工事(3号館、5年計画の2年目)
- 排水処理装置排水用樹脂入替工事
- 動力盤制御ユニット更新工事(4・5号館、4年計画の初年度)

[牧野キャンパス]

- 大阪府枚方・高槻線交通安全対策工事に伴う正門移設・擁壁等工事

枚方高槻線交通安全対策事業(大阪府)のため、本学牧野校地の用地一部譲渡を行った(第1059回法人理事会[2024年9月26日開催]、第185回法人評議員会[2024年9月26日開催]において用地譲渡を承認)。

その後、牧野学舎正門移設・擁壁工事の施工を完了した(第1077回法人理事会[2026年1月29日開催]において報告)。

- 体育館屋上防水工事

[天満橋キャンパス]【附属病院】

- 医療ガス設備更新工事
- 本館中央監視盤室防災システム更新工事(3年計画の最終年)
- 空調用自動制御器デジタルコントローラー更新工事
- 本館・南館・西館個別空調機更新工事
- 西館気水分離機更新工事
- 本館診療用バキューム自動排水システム改修工事
- 本館共用廊下及び待合部照明LED更新工事

(12) 法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床・社会貢献等の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・大学基準協会の大学評価(機関別認証評価)、歯学教育評価(分野別評価)の結果を踏まえた大学全体、学部等のレベルで自己点検・評価活動を実施するとともに、日本私立大学協会ガバナンス・コードによる点検を実施し、その遵守の徹底を図った。

- ・教職員の資質向上を図るため、SDセミナー（FD・SD共同セミナー）を下記のとおり開催した。

2026年1月5日 新年互礼会（教職員及び役員を対象）

理事長・学長により、本学の目指す重点計画（事業計画、中期計画の内容を含む）について講演が行われた。

- ・教職員に対する人権意識向上の一環として、人権啓発講演会を、2025年9月11日に「インターネットと人権～デジタル社会に求められる情報モラル～」をテーマに、外部講師（金井敬三氏：大阪企業人権協議会特任講師）を招き対面で開催した（オンデマンド配信：2025年10月1日～10月31日）。さらに、10月10日から11月11日にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点を選考し、受賞作品とその受賞者氏名を学内ホームページに掲載した。
- ・教職員の省エネルギーへの意識を高めるため、クールビズ、ウォームビズの期間に合わせて、各学舎の年間エネルギー使用量、使用料金をグラフ化し、その削減と経費節減の実績の向上に努めた。

(13) 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

理事の職務執行が法令、「学校法人大阪歯科大学寄附行為」「学校法人大阪歯科大学寄附行為施行細則」等に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、「内部統制システム整備の基本方針」を策定した（第1065回法人理事会〔2025年3月28日開催〕において承認）。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

① 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事の職務の執行に係る情報及び文書の取扱い等について、関係法令に基づき、情報セキュリティポリシー及び文書取扱規程等の学内規程及び体制等により、適切に保存及び管理する。

② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスクマネジメントの方針の策定、リスク管理体制の構築、危機管理体制の整備を行い、新たに「学校法人大阪歯科大学危機管理規程」を2025年4月1日付施行した（第1065回法人理事会〔2025年3月28日開催〕において承認）。

③ 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

改正「学校法人大阪歯科大学寄附行為」を2025年4月1日付で施行した（第185回法人評議員会及び第1059回法人理事会〔2024年9月26日開催〕において承認）。また、「学校法人大阪歯科大学寄附行為施行細則」を2025年4月1日付

で改正した（第 1065 回法人理事会 [2025 年 3 月 28 日開催] において承認）。

- ④ 教職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制
コンプライアンスの推進に関する管理体制を整備するため、「学校法人大阪歯科大学コンプライアンス推進規程」を 2025 年 4 月 1 日付で制定（第 1065 回法人理事会 [2025 年 3 月 28 日開催] において承認）。
- ⑤ 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等
監事の監査業務の適正性を確保する体制を整備するため、「学校法人大阪歯科大学監事監査規程」を 2025 年 4 月 1 日付で改正した（第 1067 回学校法人大阪歯科大学理事会 [2025 年 4 月 24 日開催] において承認）。

(14) 第 1 期中期計画（2020 年度～2024 年度）及び各年度事業計画（2020 年度～2025 年度）の進捗・達成状況

第 1 期中期計画、各年度事業計画について、各年度の事業報告書、大学基準協会 2021 年度大学評価（機関別認証評価）、同 2023 年度歯学教育評価の両点検・評価報告書等に基づいて、中期計画の基本的重点項目ごとに下記の 3 段階の基準により、進捗・達成状況を示した。

【進捗・達成状況に対する基準】

- ・取り組みの結果、目標を達成し良好な状態にある。
- ・取り組みの結果、目標を概ね達成している。
- ・目標達成に向けて、取り組みに一層の努力が必要である。

<p>[1] 教育力を高め、教育の質保証及び各国家試験の高水準の合格率維持を図り、優れた歯科医師等を輩出</p>	<p>取り組みの結果、目標を達成し良好な状態にある。</p>
<p>○教育研究組織 ・学部の連携強化等 ・看護学部設置完了、大学院看護学研究科（仮称）の設置準備等</p>	<p>本学の「教育研究組織の設置の方針」を踏まえ、2021 年 11 月医療イノベーション研究推進機構発足、2024 年 4 月看護学部設置、歯科衛生士研修センター（2018 年開所）での事業継続、大学院看護学研究科（仮称）の設置申請に向けた取り組みなどの新たな教育研究環境に対応した組織の見直しを進め、着実な質向上を継続している。</p>
<p>○教育課程・教育成果 ・国家試験合格率の向上 ・アクティブ・ラーニングの授業実施率の向上 ・情報リテラシーに関する授業実施率の向上等</p>	<p>全学及び各学部のアセスメント・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた取り組みの結果、安定した教育成果を上げた。 【歯学部】 歯科医師国家試験合格率（2023 年度～2025 年度）（新卒者） 第 117 回 95.8%、第 118 回 100%、第 119 回 100%</p>

<p>・特色ある教育プログラムの実施等</p>	<p>【医療保健学部】 口腔保健学科 歯科衛生士国家試験合格率（新卒者） 100%（2020年度～2025年度） 口腔工学科 歯科技工士国家試験合格率（新卒者） 100%（2020年度～2024年度）、88.9%（2025年度） 社会福祉士合格率 新卒者 100%（2023年度～2025年度）</p> <p>【大学学部共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修時間、授業評価結果、学修成果（学位取得状況など）学修成果の可視化のためのアセスメント・テスト等を本学ホームページに公表している。 ・シラバスへ学修に必要な各種情報を全て明記している。 ・学部入学者に対して入学前に取り組むべき課題等を提示し、大学教育に必要な学修方法の修得等を目的とした「初年次教育」を実施している。 ・アクティブ・ラーニングを導入した科目を60%以上開講している。 ・情報リテラシーに関する科目を全学部で開講している。 ・文部科学省から2021年度に選定を受けた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の充実を図った。 <p>【大学院共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯学研究科及び医療保健学研究科では、アセスメント・プランを策定する方向で議論を進めている段階であり、引き続き検討中である。
<p>○学生の受け入れに関する取り組みの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試競争倍率の向上 ・入学定員の充足 ・収容定員充足率の改善等 	<p>全学及び各学部のアドミッション・ポリシーを踏まえた取り組みの結果、一定の成果を上げた。</p> <p>【歯学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員充足率が全ての年度で1.00を維持し、入試競争倍率（受験者数/合格者数）は、2023年度：3.4、2024年度：4.54、2025年度：3.83であり、目標を達成している。 ・収容定員充足率は、2024年度1.01、2025年度1.00で改善している。 <p>【医療保健学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員充足率 <p>口腔保健学科 2024年度：1.14、2025年度：1.01 口腔工学科 2024年度：0.57、2025年度：0.97</p> <p>口腔工学科については、過去5年間の入学定員に対する入学者比率が0.83と低いことから改善を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試競争倍率 <p>口腔保健学科 2024年度：1.17、2025年度：1.05</p>

	<p>口腔工学科 2024年度：1.00、2025年度：1.03</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員充足率 <p>口腔保健学科 2024年度：1.04、2025年度：1.00</p> <p>口腔工学科 2024年度：0.77、2025年度：0.81</p> <p>上記の改善のために、口腔工学科について、システム口腔工学コース、IT パスポート（国家資格）及び医療情報技師（認定資格）の資格取得に関連する授業科目の新設を行う等特色ある教育を行い、入学者数と在籍学生数の維持を目指している。</p> <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員充足率 2024年度：1.25、2025年度：1.00 ・入試競争倍率 2024年度：1.26、2025年度：2.09 ・収容定員充足率 2024年度：1.25、2025年度：1.11 																		
<p>○学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年指導教授、助言教員等によるきめ細かいサポート体制の推進等 	<p>【大学学部共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年指導教授、助言教員等によるきめ細かいサポート体制を推進し、学生支援体制は充実している。 ・オフィスアワーによるきめ細かな学修指導を行っている。 ・高等教育の修学支援制度による学生生活の支援を行っている。 																		
<p>[2] 研究力及び研究の質の向上を図るとともに海外研修制度の充実と国際交流の活性化</p>	<p style="text-align: center;">取り組みの結果、目標を概ね達成している。</p>																		
<p>○研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費申請数、採択数の増加による研究力アップ ・外部研究費の獲得等 	<p>①科学研究費補助金の採択件数、補助金額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(採択件数)</th> <th style="text-align: center;">(直接経費+間接経費)</th> </tr> <tr> <th></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">—新規・継続の合計—</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和7(2025)年度</td> <td style="text-align: center;">83件</td> <td style="text-align: right;">1億2,129万円</td> </tr> <tr> <td>令和6(2024)年度</td> <td style="text-align: center;">78件</td> <td style="text-align: right;">1億1,778万円</td> </tr> <tr> <td>令和5(2023)年度</td> <td style="text-align: center;">71件</td> <td style="text-align: right;">1億 816万円</td> </tr> <tr> <td>令和4(2022)年度</td> <td style="text-align: center;">59件</td> <td style="text-align: right;">9,152万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>②令和2年度～令和6年度各年度での主な外部研究資金（科学研究費補助金以外）による研究（直接経費+間接経費）</p> <p>（令和2年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創薬支援推進事業・創薬総合支援事業（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））110万円 ・国際科学技術共同研究推進事業 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））65万円 <p>（令和3年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者奨励金（日本私立学校振興共催事業団）40万円 		(採択件数)	(直接経費+間接経費)		—新規・継続の合計—		令和7(2025)年度	83件	1億2,129万円	令和6(2024)年度	78件	1億1,778万円	令和5(2023)年度	71件	1億 816万円	令和4(2022)年度	59件	9,152万円
	(採択件数)	(直接経費+間接経費)																	
	—新規・継続の合計—																		
令和7(2025)年度	83件	1億2,129万円																	
令和6(2024)年度	78件	1億1,778万円																	
令和5(2023)年度	71件	1億 816万円																	
令和4(2022)年度	59件	9,152万円																	

	<ul style="list-style-type: none"> ・再生医療実現拠点ネットワークプログラム幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））130万円 ・医薬品等規制緩和・評価研究事業（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））65万円 （令和5年度） ・優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）） ・「医療・介護・健康データ利活用基盤高度化事業（医療高度化に資するPHRデータ流通基盤構築事業）」 （令和6年度） ・厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業） <p>③SDGs（持続可能な開発目標）関連の研究・教育の推進今後の継続した取り組みとしている。</p>
<p>○国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の学生、研究者の受け入れの促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度初頭で新型コロナウイルス感染症が流行し、国際交流が一時中止となったが、2024年7月から本学学部生・大学院生及び協定校を含む海外の学生が英語で研究発表を行う「Forum for International Students」を対面で再開した（2021年度～2023年度はオンラインで開催）。 ・2024年4月現在で海外17大学との学術交流協定を締結している（学生・教職員交流は12大学）。
<p>[3] 附属病院改革による病院機能の強化及び収支改善</p>	<p style="text-align: center;">取り組みの結果、目標を概ね達成している。</p>
<p>病院組織改革委員会（2016年4月発足）での検討を通じ、各診療科の取り組みにより、医療収入は、2019年度比6億8,700万円増（増加率30.8%）と大幅に増加し、黒字化に向けて鋭意努めた。</p> <p>（2019年度）22億3,126万円→（2024年度）29億1,840万円【6億8,700万円増】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間来院患者数は延べ約25万人であり、地域歯科医療の中核として、地域の歯科診療所等からのCT、MRI、歯科用コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与している。 ・内科の睡眠時無呼吸外来と睡眠歯科センターは、睡眠時無呼吸の患者さんに対する医科歯科連携の医療に取り組んでいる。 ・2025年4月より頭頸部腫瘍や口腔腫瘍などの術後に顎の形態が変形した患者さんに対して特殊な義歯を作製する顎補綴外来を設け、多様なニーズに対応している。 	
<p>[4] 社会貢献・地域連携の積極的な展開</p>	<p style="text-align: center;">取り組みの結果、目標を達成し良好な状態にある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会連携・社会貢献に関する方針」を踏まえ、教育・研究・臨床の成果を社会に還元している。大阪介護老人保健施設協会と協定を通じ、地域包括ケアシステムにおける未来の連携モデルへの推進に寄与している。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪歯科大学公開講座」「大阪歯科大学附属病院健康セミナー」の開講は受講者に好評を博している。 ・歯科衛生士研修センターでは、歯科衛生士復職支援及び離職防止に向けて積極的に活動を展開している。 	
[5] 財政基盤の充実	取り組みの結果、目標を達成し良好な状態にある。
<p>内部留保が潤沢であり、財務の安定性が高く、支払資金が安定的に推移しており、支払能力に問題がなく財政基盤は盤石である。純資産構成比率、内部留保資産比率、運用資産余裕比率について、全て全国平均を上回っている。</p>	
[6] 戦略的人事政策の策定と実行	取り組みの結果、目標を概ね達成している。
<ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制している。また、FD・SDに関しては専任教職員が積極的に参加している。なお、大学基準協会の2021年度大学評価（認証評価）において、教育改善に関する大学院固有のFDが行われていないとの指摘があり、博士課程（前期・後期）又は各研究科の改善課題として第2期中期計画において改善を行うこととしている。 ・次世代育成支援対策推進法等に基づく一般事業主行動計画を定めており、重要課題として次期以降改善を行う。 	
[7] 管理運営体制の強化	取り組みの結果、目標を概ね達成している。
<p>第1期中期計画を学内外に公表し、理事会を中心に大学のガバナンス体制の充実と内部統制システムの機能強化を図り、私立学校法等の法令を遵守し、ガバナンス・コードを明示し良好に大学・法人運営を行っている。</p>	
○自己点検・評価/認証評価	<p>「大学協議会」「自己点検・評価委員会」合同会議において、各学部・研究科の課題の改善に向けて、審議を行った。今後、内部質保証推進組織としての機能を充実させていくこと等2021年度大学評価における改善課題・是正勧告について継続課題として取り組む。また、PDCAサイクルによる各部門の点検・評価体制の強化に努める。</p>
○教育研究等環境の整備 ・ICT環境の整備を含めた3キャンパス全体の環境改善の検討を行う。	<p>教育研究等環境の整備の方針を定め、キャンパスの整備を進めている。大学及び大学院設置基準上必要な面積を上回る校地・校舎を保有している。ネットワーク環境の運用管理は、教育情報センターが環境整備に努めており、学術情報サービスについては、図書館が提供する体制を整えている。</p>

(15) 附属資料

1. 2025年度学生数 (2025年5月1日現在) () は女子

歯学部	第1学年	128	(60)	歯学研究科	第1学年	34	(16)
	第2学年	137	(77)		第2学年	41	(17)
	第3学年	118	(65)		第3学年	38	(18)
	第4学年	138	(71)		第4学年	38	(17)
	第5学年	140	(55)			151	(68)
	第6学年	109	(58)				
		770 (386)					

医療保健学部	第1学年	口腔保健学科	77	(76)	口腔工学科	33	(11)
	第2学年	口腔保健学科	68	(68)	口腔工学科	12	(8)
	第3学年	口腔保健学科	76	(76)	口腔工学科	26	(16)
	第4学年	口腔保健学科	59	(59)	口腔工学科	26	(15)
			280 (279)			97 (50)	

医療保健学研究科

修士課程	第1学年	4	(3)	博士課程(後期)	第1学年	4	(3)
	第2学年	10	(7)		第2学年	3	(2)
		14 (10)			第3学年	15	(14)
						22 (19)	

看護学部	第1学年	80	(73)
	第2学年	97	(90)
		177 (163)	

2. 国家試験の結果

1) 第119回歯科医師国家試験の結果

2026年3月16日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	163	95	58.3	57	57	100.0	106	38	35.8
全国	2,837	1,757	61.9	1,849	1,482	80.2	988	275	27.8

2) 第35回歯科衛生士国家試験の結果

2026年3月26日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	55	55	100.0
全国	7,882	7,452	94.5

3) 令和7年度歯科技工士国家試験の結果

2026年3月26日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	18	16	88.9
全国	792	722	91.2

4) 第38回社会福祉士国家試験の結果

2026年3月3日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	9	5	55.6	4	4	100.0	5	1	20.0
全国	25,430	15,438	60.7	-	-	-	-	-	-

3. 2026年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数
歯学部	学校推薦型	106	56	
	一般前期	367	118	
	チョイス2前期	293	59	
	チョイス1前期	296	49	
	一般全学部日程	203	34	
	一般後期	116	18	
	チョイス2後期	110	19	
	チョイス1後期	107	10	
	共通テスト利用[5科目]前期	182	64	128
	共通テスト利用[3科目]前期	172	54	
	共通テスト利用[2科目]前期	179	55	
	プラス1前期	135	40	
	共通テスト利用[5科目]後期	35	8	
	共通テスト利用[3科目]後期	39	9	
	共通テスト利用[2科目]後期	42	10	
	プラス1後期	31	9	
	外国人留学生(1年次)	9	2	
	転入・編入(2年次)	5	3	3
	外国人留学生(2年次)	0	0	

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数	
医療保健学部	口腔保健学科	総合型(学修意欲評価型)	45	45	86
		学校推薦型	39	34	
		一般前期	27	20	
		一般全学部日程	5	3	
		一般後期	3	2	
		共通テスト利用前期	12	9	
		共通テスト利用後期	3	3	
		社会人特別	0	0	
		外国人留学生(1年次)	0	0	
		転入・編入(2年次)	0	0	
	口腔工学科	総合型	3	3	31
		学修意欲評価型	0	0	
		専門・総合学科特色型	4	4	
		ダイバーシティ型	9	9	
		学校推薦型	9	9	
		一般前期	10	10	
		一般全学部日程	4	4	
		一般後期	1	1	
		共通テスト利用前期	9	7	
		共通テスト利用後期	1	1	
看護学部	社会人特別	0	0	94	
	外国人留学生(1年次)	9	9		
	転入・編入(2年次)	0	0		0
	総合型(学修意欲評価型)	36	20		
	学校推薦型	103	80		
	一般前期[3教科型]	51	16		
	一般前期[2教科型]	66	10		
	一般全学部日程	24	4		
	一般後期	21	5		
	共通テスト利用前期	30	17		
歯学研究科	共通テスト利用後期	2	1	38	
	ファミリー特別	4	2		
	社会人特別	0	0		
	一般一次	12	11		
	一般二次	13	13		
	一般三次	0	0		
	社会人特別	3	3		
社会人特別(二次)	1	1			
外国人留学生特別	10	10			

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数	
医療保健学研究科	修士課程	第1回募集	1	1	8
		第2回募集	7	7	
		第3回募集	2	2	
		第4回募集	0	0	
	博士課程 (後期)	第1回募集	0	0	4
		第2回募集	3	3	
		第3回募集	1	1	
		第4回募集	0	0	

※学部は補欠合格者を含む。

4. 2024年度会計実査 2025年4月2日(水)
5. 大学看護学部入学式 2025年4月2日(水) 午前10時(於: 楠葉学舎)
6. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2025年4月4日(金) 午前10時(於: 楠葉学舎)
7. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式
2025年4月4日(金) 午後2時(於: 楠葉学舎)
8. 新入生研修／ガイダンス
 - ・歯学部 2025年4月7日(月)、8日(火)、10日(木)、11日(金)(於: 楠葉学舎)
 - ・医療保健学部 2025年4月7日(月)～11日(金)(於: 牧野学舎)
 - ・看護学部 2025年4月1日(火)～4日(金)(於: 楠葉西学舎)
9. 2024年度監事監査 2025年5月19日(月)、20日(火)(於: 楠葉学舎)

10. オープンキャンパス ※各回の参加状況は、いずれも家族などの付き添いを含まない人数

1) 歯学部オープンキャンパス

回	日程	参加状況	実施場所
第1回	6月15日	134名	楠葉キャンパス (3学部同時開催)
第2回	8月3日	182名	天満橋キャンパス

2) 医療保健学部オープンキャンパス

回	日程	参加状況		実施場所
		口腔保健学科	口腔工学科	
第1回	3月16日	35名	10名	牧野キャンパス
第2回※	5月31日		13名	天満橋キャンパス
第3回	6月15日	49名	8名	楠葉キャンパス (3学部同時開催)
第4回	7月27日	108名	11名	牧野キャンパス
第5回※	8月8日		11名	天満橋キャンパス
第6回	8月16日	105名	25名	牧野キャンパス

※口腔工学科のみ対象

3) 看護学部オープンキャンパス

回	日程	参加状況	実施場所
第1回	3月20日	43名	楠葉キャンパス
第2回	5月25日	71名	楠葉キャンパス
第3回	6月15日	66名	楠葉キャンパス (3学部同時開催)
第4回	7月26日	113名	楠葉キャンパス
第5回	8月16日	158名	楠葉キャンパス
第6回	9月15日	46名	楠葉キャンパス

11. 歯学部父兄会・共済会総会（於：楠葉学舎）

2025年6月28日（土）午後1時 総会出席者数76名

12. 第57回全日本歯科学生総合体育大会 2025年7月31日（木）～8月11日（月）

13. 2025年度FDセミナー（本文参照）

14. 第31回大阪歯科大学公開講座

・メインテーマ

「口腔と身体フレイル予防で健康長寿を獲得しよう！」

・日程 天満橋講座 2025年8月30日（土）、9月6日（土）午前10時～正午
受講者延べ292名（於：100周年記念館）

枚方講座 2026年2月7日（土）、14日（土）午後1時～午後3時
受講者延べ542名（於：楠葉学舎）

15. 2025 年度人権啓発講演会
 2025 年 9 月 11 日（木）（於：100 周年記念館）（10 月 1 日～10 月 31 日 Web 配信）
 テーマ「インターネットと人権」 ～デジタル社会に求められる情報モラル～
 講師：大阪企業人権協議会 特任講師 金井 敬三氏
16. 大阪歯科大学父兄会個人懇談会
 ・歯学部第 5・6 学年 2025 年 8 月 31 日（日） 109 名出席（於：100 周年記念館）
 ・歯学部第 1～4 学年 2025 年 10 月 5 日（日） 167 名出席（於：楠葉学舎）
17. 2025 年度楠葉祭 2025 年 11 月 8 日（土）、9 日（日）（於：楠葉学舎）
18. 解剖体慰霊祭 2025 年 11 月 14 日（金）午後 1 時（於：楠葉学舎講堂）
19. 実験動物慰霊祭
 2025 年 11 月 19 日（水）～26 日（水）（於：楠葉学舎 3 号館 1 階ゼミナール室）
20. 2025 年度防災・防火訓練 牧野学舎 2025 年 12 月 9 日（火）
 天満橋学舎 2025 年 11 月 10 日（月）、2026 年 3 月 23 日（月）
 ※楠葉学舎・楠葉西学舎では「教養型防災・防火訓練」を実施
 （楠葉学舎：2025 年 11～12 月、楠葉西学舎：2026 年 2～3 月）
21. 歯学生診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験
 ・臨床実地試験 2025 年 11 月 18 日（火）（医療系大学間共用試験実施評価機構派遣監督者視察日）
 ・一斉技能試験 2026 年 2 月 28 日（土）
22. 2026 年新年互礼会 2026 年 1 月 5 日（月）（於：楠葉学舎）
23. 2025 年度共用試験歯学系 OSCE 並びに CBT
 ・OSCE 2026 年 1 月 18 日（日）午前 9 時（於：天満橋学舎）
 ・GBT 2026 年 2 月 3 日（火）午前 9 時 30 分（於：楠葉学舎）
24. 2025 年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学位認証式
 2026 年 3 月 6 日（金）午前 10 時（於：楠葉学舎）
25. 2025 年度大学医療保健学部卒業式並びに大学院医療保健学研究科学位認証式
 2026 年 3 月 12 日（木）午前 10 時（於：楠葉学舎）
26. 2025 年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2026 年 3 月 24 日（火）（於：天満橋学舎）

27. 特待生の採用
- ・ 歯学部
第2学年から第6学年の各3名、計15名に対し授業料各100万円免除
第2学年1名（入学者選抜成績優秀者）の授業料461万円免除
 - ・ 医療保健学部
口腔保健学科 第2学年1名、第3学年2名、第4学年1名
計4名の授業料等各84万円免除
 - ・ 看護学部
第2学年2名の授業料各40万円免除
28. 大阪歯科大学歯学部奨学金奨学生選考 5名の学生に対して総額4,000,000円の奨学金を貸与
29. 2025年度研修歯科医の募集定員 プログラムS（単独型）20名、プログラムC（複合型）120名
30. 学位授与
- 1) 博士（歯学）
学位記番号 甲第1056号～1090号 35名に学位記授与
学位記番号 乙第1675号～1687号 13名に学位記授与
 - 2) 博士（口腔科学）
学位記番号 甲第13号～19号 7名に学位記授与
 - 3) 修士（口腔科学）
学位記番号 第50号～58号 9名に学位記授与
31. 令和7年度歯科衛生士の人材確保実証事業「歯科衛生士技術修練部門運営事業」の実施団体に選定（7月4日）
32. 歯学部3年・足立梨夏さんがスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRIP）日本代表選抜大会で第3位入賞（8月5日）
33. 枚方市総合防災訓練“枚方ひこ防’z 2025”に看護学部教員等がブース出展（11月22日）
34. 福利厚生施設「山の家」の解体及び土地の返還（12月）
35. 枚方高槻線交通安全対策事業（大阪府）による（枚野学舎正門側）歩道設置工事及び正門等移設工事完了（1月）
36. 文部科学省に「大学院看護学研究科看護学専攻（仮称）」設置認可申請中（3月4日）

37. 2025 年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・看護学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議

1) 法人理事会 15 回開催

(2025 年 4 月 24 日、5 月 29 日、6 月 26 日に 2 回、7 月 24 日、8 月 28 日、9 月 25 日、10 月 23 日、11 月 27 日、12 月 25 日、2026 年 1 月 29 日、2 月 26 日に 2 回、3 月 26 日に 2 回)

2) 法人評議員会 4 回開催

(2025 年 5 月 29 日、6 月 26 日、2026 年 2 月 26 日、3 月 26 日)

3) 歯学部主任教授会 18 回開催

(2025 年 4 月 9 日、5 月 14 日、5 月 28 日、6 月 13 日、7 月 9 日、8 月 13 日、9 月 10 日、10 月 8 日、11 月 12 日、11 月 19 日、12 月 1 日、12 月 10 日、12 月 24 日、2026 年 1 月 15 日、2 月 13 日、3 月 11 日、3 月 13 日、3 月 25 日)

4) 歯学部教授会 (全体教授会) 2 回開催

(2025 年 4 月 9 日、2026 年 3 月 25 日)

5) 医療保健学部教授会 17 回開催

(2025 年 4 月 16 日、5 月 21 日に 2 回、6 月 17 日、7 月 16 日、8 月 20 日、9 月 17 日、10 月 15 日、10 月 31 日、11 月 19 日、12 月 1 日、12 月 17 日、2026 年 1 月 21 日、2 月 13 日、2 月 19 日、3 月 13 日、3 月 18 日)

6) 看護学部教授会 16 回開催

(2025 年 4 月 16 日、5 月 21 日、6 月 17 日、7 月 16 日、8 月 20 日、9 月 17 日、10 月 15 日、10 月 31 日、11 月 19 日、12 月 1 日、12 月 17 日、2026 年 1 月 21 日、2 月 13 日、2 月 18 日、3 月 13 日、3 月 18 日)

7) 大学院歯学研究科会議 14 回開催

(2025 年 4 月 23 日、5 月 26 日、6 月 25 日、7 月 23 日、8 月 27 日、9 月 24 日、10 月 22 日、11 月 12 日、11 月 26 日、12 月 24 日、2026 年 1 月 28 日、2 月 25 日、3 月 11 日、3 月 25 日)

8) 大学院医療保健学研究科会議 12 回開催

(2025 年 4 月 16 日、5 月 21 日、6 月 17 日、7 月 16 日、8 月 20 日、9 月 17 日、10 月 15 日、11 月 19 日、12 月 17 日、2026 年 1 月 21 日、2 月 19 日、3 月 18 日)

38. 令和 7 年の叙勲受章者 (本学関係)

大学 16 回 新谷 衛 京都府 瑞宝双光章 共 12 名

39. 教職員数 (2025 年 5 月 1 日現在 : 407 名)

1) 教員数 220 名

学長 1 名

歯学部 148 名

主任教授 25 名、専任教授 7 名、准教授 18 名、講師 44 名、助教 54 名

医療保健学部 28 名

教授 7 名、准教授 4 名、講師 8 名、助教 3 名、助手 6 名

看護学部 29名

教授8名、准教授4名、講師5名、助教11名、助手1名

附属病院 12名

専任教授3名、准教授2名、講師4名、助教3名

法人 1名

助教1名

2) 職員数 187名

事務・技術96名、医療90名、労務1名

40. 人事

1. 法人関係

1) 法人役員就任(理事10名・監事2名)

理事長 川添 堯彬

常務理事 田中 昭男(業務執行理事、総務・人事担当)

理事 盛山 正仁

理事 生駒 等(業務執行理事、調査担当)

理事 今井 弘一

理事 中嶋 正博(業務執行理事、財務・人事担当)

理事 三宅 達郎

理事 山本 一世(業務執行理事、教学担当)

理事 藤原 眞一

理事 中尾 昌彦(業務執行理事、財務担当)

監事 古川 壽男

監事 平田 正憲

(以上 2025年6月26日付)

2) 評議員就任(36名)

池尾 隆、辻林 徹、前田 博史、岡本 学、和手 甚京、酒井 昭則、徳富 敏信、
大松 高、恩田 信雄、加藤 信次、橋本 成人、中村 彰彦、土居 正英、小川 哲治、
大塚 俊裕、安岡 良介、深田 拓司、飯利 邦洋、北條 博一、松本 圭右、吉本 一馬、
上田 雅俊、末瀬 一彦、平塚 靖規、和唐 雅博、柿本 和俊、雄西 智恵美、馬場 俊輔、
百田 義弘、高橋 一也、富永 和也、沖永 敏則、野崎 中成、志水 秀郎、奥田 純一、
杉立 智子

(以上 2025年6月26日付)

3) 評議員退任 池尾 隆(2026年3月31日付)

4) 特任教授任用 大学院看護学研究科(仮称)開設準備室 博士(医学) 田村 恵子 共2名

2. 名誉教授称号授与 三宅 達郎 共2名

3. 退職

1) 定年退職 生化学講座 主任教授 池尾 隆 共11名

2) 依願退職 医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター 専任教授 谷城 博幸 共16名

3) 任期満了退職 欠損歯列補綴咬合学講座 助教 高尾 誠二 共5名

4) 定年退職後再雇用任期満了退職 歯科衛生士研修センター 副センター長 高田橋 美幸 共5名

4. 昇任

- 1) 歯学部准教授 化学教室 講師 牧田 佳真 共5名
- 2) 医療保健学部准教授 口腔工学科 講師 三宅 晃子
- 3) 歯学部講師 口腔解剖学講座 助教 仲川 雅人 共4名
- 4) 医療保健学部講師 口腔保健学科 助教 谷 亜希奈
- 5) 歯学研究科大学院准教授 歯周病学 嘉藤 弘仁
- 6) 職員 研究支援課 参事 高森 舞 共6名

5. 任用

- 1) 歯学部主任教授 小児歯科学講座 博士(歯学) 海原 康孝
 - 2) 歯学部准教授 歯科麻酔学講座 博士(歯学) 岡安 一郎
 - 3) 歯学部講師 口腔解剖学講座 博士(人間科学) 乾 千珠子
 - 4) 歯学部助教 薬理学講座 博士(歯学) 谷口 諒至 共11名
 - 5) 附属病院診療科助教 口腔外科学第二科 博士(歯学) 田中 文恵 共2名
 - 6) 医療保健学部助手 口腔保健学科 修士(口腔科学) 鶴木 叶恵
 - 7) 大学院歯学研究科教員 大学院教授 海原 康孝、大学院准教授 山本 景一
 - 8) 看護師 附属病院 渡邊 奈緒美 共3名
 - 9) 歯科衛生士 附属病院 天満 菜生
 - 10) 歯科技工士 附属病院 奥野 賢治
 - 11) 任期付職員の専任職員登用 設置事務室 主任 須賀 久美子 共4名
 - 12) 任期付職員新規採用 医事課 事務職員 宇野 剛司 共3名
6. 歯学部任期制教員任期更新 有歯補綴咬合学講座 主任教授 柏木 宏介 共6名
 7. 医療保健学部任期制教員任期更新 口腔保健学科 講師 米澤 美保子
 8. 歯学部任期制教員無期転換 歯科医学教育開発センター 専任教授 王 宝禮 共7名
 9. 所属異動 医療保健学部口腔工学科 教授 橋本 正則 共4名
 10. 兼務 調達室 課長 田中 敬子 共2名
 11. 定年退職後再雇用 図書課 課長 宮本 忠之 共2名
- #### 12. 委嘱

1) 大学役職者

大学院歯学研究科科長 馬場 俊輔
口腔工学科学科長 藤井 孝政

- 2) 歯学部特任教授 病理学室 田中 昭男 共7名
- 3) 医療保健学部特任教授 医療保健学部 方 一如 共2名
- 4) 看護学部特任教授 雄西智恵美 共2名
- 5) 歯学部特任准教授 歯科麻酔学講座 真鍋 康三 共2名
- 6) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦
- 7) 歯学部客員教授 近畿大学 名誉教授 本津 茂樹 共11名
- 8) 医療保健学部客員教授 兵庫医科大学 主任教授 岸本 裕光 共3名

- 9) 歯学部客員准教授 口腔治療学講座 好川 正孝
- 10) Visiting Professor 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共6名
- 11) 2025年度歯学部講師(非常勤)438名
 2025年度医療保健学部講師(非常勤)等110名
 2025年度看護学部講師(非常勤)等48名
 2024・2025年度歯学研究科講師(非常勤)追加10名
 2025年度医療保健学研究科(修士課程)講師(非常勤)21名
 2025年度医療保健学研究科博士課程(後期)講師(非常勤)10名
- 12) 診療科科長 保存修復科 岩田 有弘 共18名
- 13) 診療科主任 保存修復科 杉村 留奈 共16名
- 14) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康 共3名
- 15) 臨床准教授 はばら歯科 院長 三木 仁志
- 16) 臨床講師 大阪歯科大学 元助教 覺道 昌樹
- 17) 医員等41名
- 18) 病院医員52名
- 19) 大学院医員76名
- 20) ティーチング・アシスタント 病理学 大学院1年 上田 愛里 共33名
- 21) ポストドクトラルフェロー 口腔解剖学講座 博士(歯学) 鄧 梓 共3名
- 22) 歯学部学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共3名
- 23) 医療保健学部学生相談室カウンセラー 臨床心理士 波多野 久美子
- 24) 楠葉学舎医務室嘱託医師 木田 博 共3名
- 25) 牧野学舎保健室嘱託医師 大久保 直 共3名
- 26) 各種委員会委員長交代
- (1) 歯学部、歯学研究科関係
- | | | |
|---------------|-----|-------|
| 廃棄物処理委員会 | 委員長 | 田中 昭男 |
| 歯学研究科大学院委員会 | 委員長 | 馬場 俊輔 |
| 組換えDNA実験安全委員会 | 委員長 | 沖永 敏則 |
- (2025年4月1日付)
- (2) 法人関係
- | | | |
|-------------|-----|-------|
| 退職資金管理運営委員会 | 委員長 | 田中 昭男 |
| 環境管理委員会 | 委員長 | 三宅 達郎 |
| 資産運用検討委員会 | 委員長 | 中嶋 正博 |
- (2025年6月26日付)
- 27) 歯学部学年指導教授
- 1年 上村 守、2年 本田 義知、3年 富永 和也、4年 小野 圭昭、沖永 敏則
 5年 前田 博史、有地 淑子、6年 三宅 達郎、前川 賢治

28) 医療保健学部学年指導教授

口腔保健学科 1年・2年 島田 明子、3年・4年 梶 貢三子

口腔工学科 1年 藤井 孝政、2年 橋本 正則、3年 樋口 鎮央、4年 中塚 美智子

29) 看護学部学年指導教授

1年 祖父江 育子、2年 波川 京子

41. 国際交流（本文参照）

42. 補助金等

- 1) 2025年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（10件）2,500,000円
- 2) 令和7年度科学研究費補助金交付（文部科学省）（本文参照）
- 3) 令和7年度私立大学等経常費補助金交付（本文参照）
- 4) 令和7年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）交付 補助金額 3,224,000円
- 5) 大学等における修学の支援に関する法律による令和7事業年度授業料等減免費交付 156,358,200円
- 6) 大阪府医療機関等物価高騰対策一時支援金交付 525,000円
- 7) 大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金交付 224,000円
- 8) 令和7年度臨床研修費等補助金（歯科医師）交付 77,470,365円
- 9) 寄贈
大阪歯科大学第23回卒業生（慈山会）一般寄附として（200,000円）共5件

43. 諸規程等

- 1) 大阪歯科大学動物実験規程（一部改正）
- 2) 大阪歯科大学動物実験委員会規程（一部改正）（以上 2024年4月1日付）
- 3) 大阪歯科大学転学部取扱いに関する規程（一部改正）（2025年1月1日付）
- 4) 役員の報酬等の支給に関する規程（一部改正）
- 5) 内部統制システム整備の基本方針（施行）
- 6) 大阪歯科大学四学舎施設使用規程（一部改正）（以上 2025年3月28日付）
- 7) 学校法人大阪歯科大学寄附行為施行細則（一部改正）
- 8) 理事選任機関運営規程（施行）
- 9) 評議員選任・解任規程（施行）
- 10) 学校法人大阪歯科大学監事監査規程（一部改正）
- 11) 学校法人大阪歯科大学コンプライアンス推進規程（施行）
- 12) 学校法人大阪歯科大学危機管理規程（施行）
- 13) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程（一部改正）

- 14) 大阪歯科大学大学院歯学研究科専攻科教員任用規程（一部改正）
- 15) 大阪歯科大学臨床教授等の称号の付与に関する規則（一部改正）
- 16) 臨床教授等任用内規（施行）
- 17) 評議員の報酬等の支給に関する規程（施行）
- 18) 学校法人大阪歯科大学経理規程（一部改正）
- 19) 大阪歯科大学学則（一部改正）
- 20) 大阪歯科大学大学院学則（一部改正）
- 21) 大阪歯科大学歯学部教授会・主任教授会規程（一部改正）
- 22) 大阪歯科大学医の倫理委員会規程（一部改正）
- 23) 大阪歯科大学人を対象とする歯学・医学・看護学研究実施規則（一部改正）
- 24) 大阪歯科大学オープンアクセス推進委員会規程（施行）
- 25) 大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程（一部改正）
- 26) 大阪歯科大学歯学部における新カリキュラム移行に伴う申合せ（一部改正）
- 27) 大阪歯科大学GPA制度の実施に関する規程（一部改正）
- 28) 歯学部特待生に関する内規（一部改正）
- 29) 大阪歯科大学歯学部入学特待生に関する内規（一部改正）
- 30) 歯学部再入学に関する申合せ（一部改正）
- 31) 大阪歯科大学医療保健学部履修規程（一部改正）
- 32) 大阪歯科大学医療保健学部社会福祉士コースに関する細則（一部改正）
- 33) 大阪歯科大学医療保健学部システム口腔工学コースに関する細則（施行）
- 34) 大阪歯科大学看護学部保健師教育課程履修者選考基準（一部改正）
- 35) 大阪歯科大学看護学部学生支援体制(学年担任制)に関する申し合わせ（一部改正）
- 36) 材料薬品等管理運営委員会規程（一部改正）
- 37) 院内救急委員会規程（一部改正）（以上 2025年4月1日付）
- 38) 学校法人大阪歯科大学定年退職者の再雇用に関する規則（一部改正）
（2025年4月1日付）（2025年9月25日付）
- 39) 定年退職後再雇用者の勤務細則（一部改正）（2025年4月1日付）（2025年11月27日付）
- 40) 大阪歯科大学看護学部教務委員会規程（一部改正）
- 41) 大阪歯科大学看護学部シミュレーション教育推進部会に係る申し合わせ（施行）
- 42) 大阪歯科大学看護学部入学前教育・リメディアル教育部会申し合わせ（施行）
- 43) 学校法人大阪歯科大学教育職嘱託給与規程（一部改正）（以上 2025年6月26日付）
- 44) 教員の昇任資格審査に関する申し合わせ（一部改正）
- 45) 任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ（一部改正）
- 46) 大阪歯科大学オープンアクセスポリシー（施行）
- 47) 大阪歯科大学研究データ管理・公開ポリシー（施行）（以上 2025年7月24日付）
- 48) 学校法人大阪歯科大学介護休業等規程（一部改正）（2025年8月28日付）
- 49) 学校法人大阪歯科大学育児休業等規程（一部改正）（2025年8月28日付、12月25日付）
- 50) 大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構研究実験センター管理運営規程（一部改正）
（2025年9月25日付）
- 51) 臨床実習委員会規程（一部改正）（2025年10月23日付）

- 52) 大阪歯科大学における障がいのある学生の修学等の支援に関する指針（一部改正）
- 53) 大阪歯科大学看護学部管理運営規則（一部改正）
- 54) 大阪歯科大学看護学部在学生特待生規程（一部改正）（以上 2025年11月27日付）
- 55) 学校法人大阪歯科大学就業規則（一部改正）
- 56) 教職員定年規程（一部改正）
- 57) 大阪歯科大学教育情報センター管理運営委員会規程（一部改正）
- 58) ODU 学部横断プログラムに関する規程（一部改正）
- 59) [看護学部]CBT・OSCE 対策部会申し合わせ（施行）
- 60) 大阪歯科大学看護学部における障がいのある学生の修学等の支援についての取扱要領（施行）
- 61) 院内感染防止委員会規程（一部改正）
- 62) 大阪歯科大学附属病院治験審査委員会規程（一部改正）
- 63) 大阪歯科大学附属病院治験・製造販売後調査等取扱規程（施行）
- 64) 大阪歯科大学附属病院臨床（試験）治験取扱い細則（廃止）（以上 2025年12月25日付）
- 65) 学校法人大阪歯科大学給与規程（一部改正）（2025年12月25日付）（2026年3月25日付）
- 66) 学校法人大阪歯科大学嘱託規程（一部改正）（2026年1月29日付）
- 67) 診療報酬改定におけるベースアップ評価料への対応に係る手当に関する特例規程（施行）
- 68) 学校法人大阪歯科大学特任教員給与規程（一部改正）
- 69) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則（一部改正）
- 70) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則（一部改正）（以上 2026年3月25日付）
- 71) 大阪歯科大学附属病院医療安全管理委員会規程（一部改正）
- 72) 大阪歯科大学附属病院医療安全管理室運用規程（一部改正）
- 73) 大阪歯科大学附属病院リスクマネージャ部会規程（一部改正）
- 74) 接遇委員会規程（施行）
- 75) 大阪歯科大学附属病院院内事故調査委員会規程（施行）
- 76) 大阪歯科大学附属病院事故調査委員会規程（廃止）
- 77) 医療事故調査に関する規程（廃止）（以上 2026年3月26日付）

第3部 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

固定資産が減価償却の進行等により前年度比88百万円減少するとともに、流動資産も現金・預金を中心に65百万円減少したため、資産の部の合計額は153百万円減少しました。

純資産も488百万円減少したため、純資産が総資産に占める割合である純資産構成比率は0.6ポイント低下し、91.4%となりました。

①貸借対照表の状況と経年比較

科 目	2021	2022	2023	2024	2025
固定資産	54,787	55,076	55,056	55,114	55,026
有形固定資産	16,886	18,859	23,153	22,758	22,386
特定資産	37,554	35,648	31,370	31,887	32,204
その他の固定資産	346	568	532	468	435
流動資産	4,690	4,670	4,830	4,260	4,195
資産の部合計	59,478	59,747	59,886	59,375	59,221
固定負債	3,524	3,409	3,336	3,292	3,204
流動負債	1,494	1,505	1,625	1,470	1,893
負債の部合計	5,016	4,914	4,962	4,763	5,098
基本金	73,773	74,609	74,887	75,346	75,789
繰越収支差額	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964	△ 20,734	△ 21,666
純資産の部合計	54,461	54,832	54,923	54,611	54,123
負債及び純資産の部合計	59,478	59,747	59,886	59,375	59,221

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

②財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2021	2022	2023	2024	2025
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標	91.6	91.8	91.7	92.0	91.4
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対する運用資産の蓄積度を示す指標	5.3	4.8	4.0	3.8	3.6
流動比率	短期的な支払能力を評価する指標(200%以上は優良)	314.5	310.3	297.1	289.8	221.5
総負債比率	総負債に対する他人資金の比重を評価する指標	8.4	8.2	8.3	8.0	8.6
前受金保有率	前受金が現預金で適切に保有されているかを示す指標	787.1	749.6	653.8	585.4	516.3
基本金比率	基本金要組入額に対する組入済基本金の割合	99.8	99.8	99.9	99.9	99.8
積立率	運用資金の積立状況を表す指標	70.1	68.6	66.2	65.3	64.8

(単位：運用資産余裕比率は「年」、その他は「%」)

(2) 事業活動収支計算書関係

2024年4月に開設した看護学部の学生生徒等納付金が2学年分にとどまること等の影響により、教育活動収支差額、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額は前年度に続き支出超過となりました。

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金	4,743	4,784	4,806	4,978	5,075
手数料	45	43	50	43	58
寄付金	50	60	49	73	54
経常費等補助金	462	474	428	432	555
付随事業収入	2,622	2,836	3,086	3,018	3,178
雑収入	314	368	347	311	333
教育活動収入計	8,238	8,568	8,769	8,857	9,255
人件費	4,307	4,415	4,583	4,712	5,026
教育研究経費	2,961	3,152	3,488	3,836	4,062
管理経費	524	667	648	709	714
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	7,793	8,235	8,720	9,258	9,804
教育活動収支差額	445	333	48	△ 400	△ 549
受取利息・配当金	46	33	38	48	66
教育活動外収入計	46	33	38	48	66
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	46	33	38	48	66
経常収支差額	491	366	87	△ 351	△ 482
資産売却差額	0	0	0	40	0
その他の特別収入	16	74	19	11	17
特別収入計	16	74	19	52	17
資産処分差額	444	70	15	12	23
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	444	70	15	12	23
特別収支差額	△ 428	3	4	40	△ 5
基本金組入前当年度収支差額	63	370	91	△ 311	△ 488
基本金組入額合計	△ 64	△ 7,135	△ 278	△ 464	△ 443
当年度収支差額	△ 1	△ 6,764	△ 187	△ 776	△ 932
前年度繰越収支差額	△ 19,634	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964	△ 20,734
基本金取崩額	324	6,300	0	6	0
翌年度繰越収支差額	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964	△ 20,734	△ 21,666
(参考)					
事業活動収入計	8,301	8,676	8,827	8,959	9,339
事業活動支出計	8,238	8,305	8,736	9,270	9,828

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

②財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2021	2022	2023	2024	2025
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合	52.0	51.3	52.0	52.9	53.9
教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合	35.7	36.6	39.6	43.1	43.6
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合	6.3	7.8	7.4	8.0	7.7
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額の対事業活動収入比率	0.8	4.3	1.0	△ 3.5	△ 5.2
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合	57.2	55.6	54.6	55.9	54.4
経常収支差額比率	経常収支差額の経常収入に占める割合	5.9	4.3	1.0	△ 3.9	△ 5.2

(単位：%)

(3) 資金収支計算書関係

収入の部では、看護学部在校生増加に伴い学生生徒等納付金収入が増加するとともに、医療収入の増加に伴い付随事業・収益事業収入も増加しました。

一方、支出の部でも、人件費支出、教育研究経費支出がともに増加したため、翌年度繰越支払資金は144百万円減少しました。

① 資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金収入	4,743	4,784	4,806	4,978	5,075
手数料収入	45	43	50	43	58
寄付金収入	49	60	48	73	53
補助金収入	462	527	428	432	555
資産売却収入	0	0	0	41	0
付随事業・収益事業収入	2,622	2,836	3,086	3,018	3,178
受取利息・配当金収入	46	33	38	48	66
雑収入	311	366	346	310	332
前受金収入	523	535	641	634	691
その他の収入	1,101	9,955	5,784	1,014	1,065
資金収入調整勘定	△ 1,083	△ 1,157	△ 1,154	△ 1,159	△ 1,237
前年度繰越支払資金	3,609	4,118	4,013	4,191	3,714
収入の部合計	12,434	22,106	18,089	13,627	13,553
人件費支出	4,415	4,521	4,660	4,729	4,999
教育研究経費支出	2,357	2,523	2,809	2,900	3,133
管理経費支出	434	575	551	585	589
施設関係支出	185	2,118	3,981	300	228
設備関係支出	164	879	1,053	306	417
資産運用支出	835	7,451	840	895	835
その他の支出	475	564	551	562	393
資金支出調整勘定	△ 552	△ 540	△ 550	△ 367	△ 613
翌年度繰越支払資金	4,118	4,013	4,191	3,714	3,569
支出の部合計	12,434	22,106	18,089	13,627	13,553

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

② 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2021	2022	2023	2024	2025
教育活動資金収入計	8,235	8,566	8,766	8,856	9,253
教育活動資金支出計	7,207	7,620	8,022	8,215	8,723
差引	1,028	946	744	640	530
調整勘定等	67	△ 50	108	△ 1	98
教育活動資金収支差額 (A)	1,096	896	852	638	629
施設整備等活動資金収入計	0	2,379	4,623	41	0
施設整備等活動資金支出計	570	9,770	5,260	935	979
差引	△ 570	△ 7,390	△ 637	△ 894	△ 979
調整勘定等	20	△ 40	21	△ 95	118
施設整備等活動資金収支差額 (B)	△ 549	△ 7,431	△ 615	△ 989	△ 860
小計 (A+B)	547	△ 6,535	236	△ 350	△ 231
その他の活動資金収入計	578	7,109	565	444	613
その他の活動資金支出計	616	679	624	571	526
差引	△ 38	6,429	△ 59	△ 126	87
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額 (C)	△ 38	6,429	△ 59	△ 126	86
支払資金の増減額 (A+B+C)	508	△ 105	177	△ 476	△ 144
前年度繰越支払資金	3,609	4,118	4,013	4,191	3,714
翌年度繰越支払資金	4,118	4,013	4,191	3,714	3,569

③ 財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2021	2022	2023	2024	2025
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収入に占める教育活動資金収支差額の割合	13.3	10.5	9.7	7.2	6.8

(単位：%)

2. その他

①資産運用の状況

- ・ 本学は以下の引当特定資産毎に設定された目的に応じた運用期間、手法で運用を行っています。

第3号基本金引当特定資産

学生奨学資金、研究者の研究奨励資金、本学の安定的な経営に資するための資金

退職金引当特定資産

教職員の将来の退職金の原資

減価償却引当特定資産

建物等の償却資産の改修や再構築の原資

医療機器購入資金引当特定資産

附属病院で使用する大型の医療機器等の原資

記念行事資金引当特定資産

周年記念行事等に使用する資金

- ・ 本学は「学校法人大阪歯科大学資産運用規程」に基づき、リスクの排除を重視した安全・確実な運用方針に基づく運用を行っています。

年度毎の運用方針並びに個別案件の運用については、資産運用検討委員会並びに法人理事会の議を経て決定しています。

また、実際の運用に運用に当たっては、運用期間の分散化に留意し、将来の金利変動に中立的なポートフォリオの構築を目指すとともに、運用商品・運用機関の選定過程の透明性の確保にも留意しています。

②学校債の状況

- ・ 学校債の発行実績はありません。

③寄付金の状況

- ・ 2025年度の寄付金収入の大半は、一般企業等からの研究目的等を指定した特別寄付金が占めており、それぞれの目的に応じた使用を行っています。

④補助金の状況

- ・ 2025年度の補助金収入の大半は、経常費等補助金や授業料等減免費交付金等の国庫補助金が占めており、補助目的に応じた使用を行っています。

⑤収益事業の状況

- ・ 本学は、本学の寄附行為に規定すべき収益事業を行っていません。

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

- ・ 本学は、541億円の純資産（純資産構成比率91.4%）を有し、その内358億円を運用資産が占めるといふ資産内容を有しており、外部からの有利子負債も皆無であるため、安定した財務基盤を有していません（運用資産余裕比率は3.6年）。

また、17期連続で30億円以上の支払資金残高を維持する等、安定した支払能力を有しています。

- ・ 経常収支差額は、2023年度まで12期連続で黒字を維持していましたが、2024年度と2025年度は看護学部の開設に伴う負担増等により赤字を計上しました。

ただし、看護学部は開設年度である2024年度以降2026年度まで募集定員を充足する新入生を確保することができているため、早期の黒字化を見込んでいます。

- ・ 今後は、教育・研究・診療水準のより一層の向上を目指した環境整備を実現するために、歯学部、医療保健学部、看護学部、附属病院の全部門が安定的な経常収支差額を計上できる体制の構築を目指してまいります。

第4部 令和7年度事業報告書附属明細書

- (1) 事業報告書の内容を補足する重要な事項
特になし。